ご連絡・お問い合わせは
公益財団法人 北九州産業学術推進機構（FAIS）の
各センターへ

【FAIS HP】　【北九州学術研究都市 HP】

Kitakyushu Foundation for the Advancement of Industry, Science and Technology
FAIS

■事務局

北九州学術都市に関する全般的なお問い合わせ		E-mail：info@ksrp.or.jp	
総務部	北九州学術研究都市内　産学連携センター1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3111	FAX 093-695-3010
学術情報センターに関するお問い合わせ			
総務部（学術情報センター） 図書室	北九州学術研究都市内　学術情報センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-3	TEL 093-695-3150 TEL 093-695-3151	FAX 093-695-3152 FAX 093-695-3152

■グリーンイノベーション推進本部

大学の研究内容の活用、産学連携、その他研究開発プロジェクトに関するお問い合わせ		E-mail：iac@ksrp.or.jp	
産学連携センター			
産学連携部 事業推進部	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006 TEL 093-695-3011	FAX 093-695-3018 FAX 093-695-3018
自動車分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail：car@ksrp.or.jp	
自動車産業支援センター	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3685	FAX 093-695-3686
半導体分野における研究開発・人材育成等に関するお問い合わせ		E-mail：ksnet@ksrp.or.jp	
半導体産業支援センター	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3007	FAX 093-695-3686
ロボット導入やＤＸ（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進に関するお問い合わせ		E-mail：robodx@ksrp.or.jp	
ロボット・DX推進センター			
ロボット産業推進部 DX推進部 DX推進部（東田オフィス）	北九州学術研究都市内　技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北8-1 九州ヒューマンメディア創造センター1階 〒805-0071 北九州市八幡東区東田1-5-7	TEL 093-695-3085 TEL 093-695-3077 TEL 093-695-3077	FAX 093-695-3525 FAX 093-695-3667
中小企業の経営、創業に関するお問い合わせ		E-mail：k_info@ksrp.or.jp	
中小企業支援センター	北九州テクノセンター1階 〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2-1	TEL 093-873-1430	FAX 093-873-1450

2022 事業報告書
ANNUAL REPORT

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

FAIS
Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS（フェイス））は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

現在、北九州学術研究都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、その他に14の研究機関や、46の企業等が集積しています。

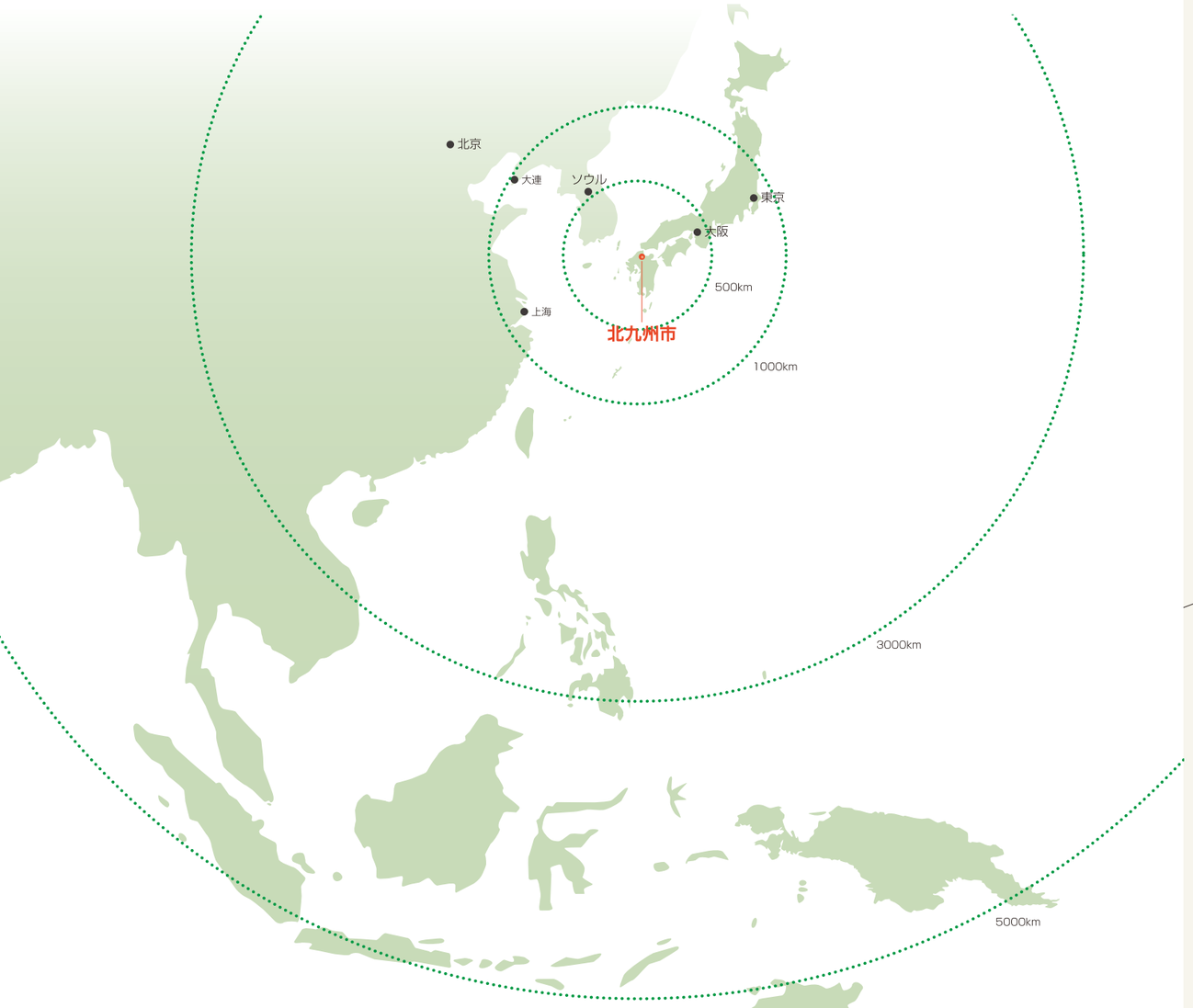
開設時には、約300人だった学生数は、現在約2,400人となり、そのうち留学生は約800人で、まさにアジアを中心とした各国からの頭脳が集まるキャンパスとなりました。

こうした中、産学官連携による研究開発や学術研究への支援などに加え、地域企業の生産性向上への支援をはじめとした「自立できる産業づくり」のためのミッションにも取り組んでいます。

中でも、令和4年4月に北九州市が新たに設置した「北九州市ロボット・DX推進センター」の運営を行い、ロボット・IoT・デジタル化といった先端技術の導入支援や相談対応にワンストップで対応できる体制を構築し、幅広い分野で地域企業の生産性向上を支援しています。

また、カーボンニュートラルや自動運転など大きく変わろうとしている自動車産業や高度な人材が求められる半導体産業における地元企業の人材育成やマッチング支援等にも取り組んでいます。

令和4年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度から延期された北九州学術研究都市20周年記念事業を開催し、今後の学術研究都市の在り方を議論するとともに、海外のサイエンスパークとの連携や地域住民との交流を促進しました。



目　次

（公財）北九州産業学術推進機構について …… 1

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要 …… 3

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設 …… 5

アジアの学術研究拠点の形成 …… 9

産学連携の推進、生産性向上等の取組

産学連携の取り組み（全体フロー） …… 13

情報収集・発信、産学交流の促進 …… 13

研究開発支援 …… 15

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》 …… 18

技術拠点化の推進 …… 19

中小企業へのロボット導入支援、DX推進 …… 21

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

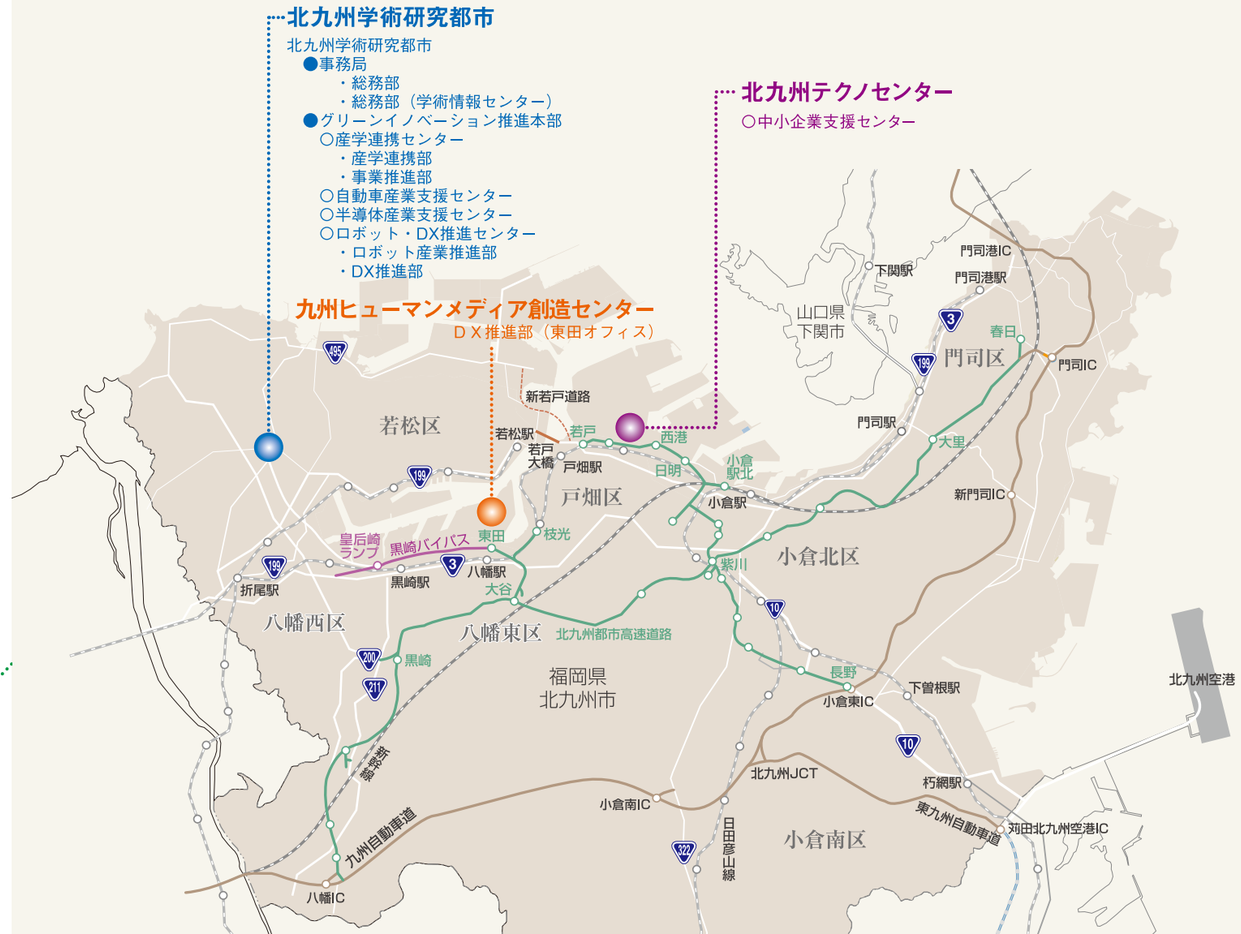
中小企業の総合的支援 …… 29

財団運営

評議員および役員名簿 …… 31

決算資料 …… 32

アクセスマップ …… 36

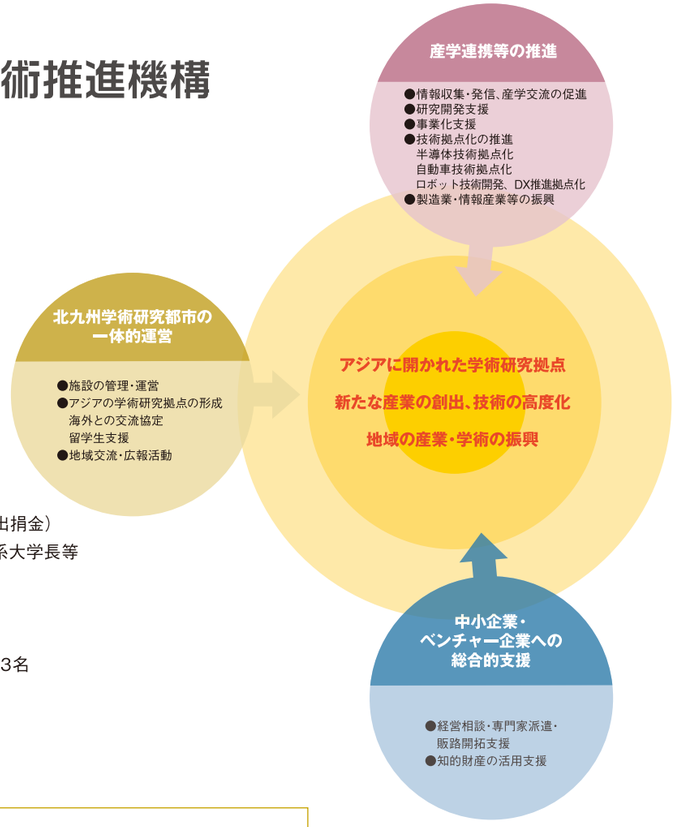


公益財団法人 北九州産業学術推進機構

フェイス
FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

■理事長／松永　守央
■基本財産／2億8,550万円（北九州市及び民間企業からの出捐金）
■役員等構成／［学界］学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
［産業界］商工会議所等経済団体
［行政］北九州市、福岡県
■職員数／68名（令和5年5月1日現在）、市派遣：14名
民間出身等：31名（うち出向12名）、事務嘱託等：23名
■令和4年度事業費（支出決算額）／20.1億円



事務局

総務部（学術情報センター）

北九州学術研究都市内にある共同利用施設の管理・運営を行うとともに、進出大学間の連携・交流を促進し、学研都市の一体的な運営を行っています。

グリーンイノベーション推進本部

産学連携センター

産学連携部

北九州学術研究都市を中心とする、産学連携ネットワークの形成や新規プロジェクトの創出・運営、新規事業化の展開の促進によって、地域企業の活性化や新産業創出を進めています。

◎産学連携のコーディネート　◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信　◎産学交流の場の提供
◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援　◎産学共同研究開発への支援
◎北九州TLOによる技術移転支援

事業推進部

中小企業等の研究開発の取り組みに対し「Go-Tech事業」など国の研究開発補助金を活用するため、事業管理機関として補助金申請、事業計画の推進、事業管理等を担い、地域企業の「ものづくり競争力強化」や「新たな事業の創出」を支援します。

◎研究開発支援　◎事業化支援　◎人材育成　◎地場企業支援

自動車産業支援センター

自動車産業推進部

自動車産業の拠点化を推進するため、産学官連携による人材育成・地場企業支援・研究開発支援を行っています。学研都市3大学が運営する連携大学院の教育プログラムの支援、アドバイザーを地場企業に派遣し、教育・生産性向上等の支援、また、企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進します。

▲クルマの未来館ひびきの
（新型HVの主要構造部品の展示等）

自動車工学「エンジン分解・組立実演」の様子
（協力：日産自動車九州㈱）

◎人材育成　◎地場企業支援　◎研究開発支援

半導体産業支援センター

北九州市域の半導体企業の活性化のため、半導体を一から学べる基礎講座の提供、半導体産業関連企業のマッチング機会の創出、大学との産学連携や企業間連携の支援などの取組みを実施しています。

◎人材育成・人材確保　◎販路の開拓や企業間交流の促進　◎技術・研究開発の促進

ロボット・DX推進センター

ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するための機関です。

当センターでは、導入支援、操作体験、人材育成等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援します。

◎ワンストップ相談窓口の運営
◎ロボット・IoT機器等の展示・体験

ロボット産業推進部

地域の中小企業へロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しているほか、市内のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営や研究開発の支援を行っています。

▲展示ロボット例

◎ロボット技術の研究開発・事業化支援
◎中小企業へのロボット導入支援　◎人材育成

DX推進部

DX推進による地域産業の高度化や、新ビジネス創出を図るため、北九州市DX推進プラットフォームやSIerネットワークの運営を行っています。

また、専門家派遣等による地域企業のDX推進支援や、経営層や現場リーダー向けの人材育成活動も実施しています。

◎専門家派遣等による企業のDX推進支援
◎新ビジネス創出・事業化支援
◎IoT導入による生産性向上支援
◎人材育成

中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1（北九州テクノセンター1階）

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口、専門家派遣、知的財産の活用の相談等を受付けています。

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点

新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と豊かな生活を創り出す
アジアの先端産業都市
の実現

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、研究開発型企業等を同一のキャンパスに集積

◎国・公・私立大学（1学部4大学院）
北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
早稲田大学大学院情報生産システム研究科
福岡大学大学院工学研究科
◎研究機関（14機関）
◎研究開発型企業等（46社）
（令和5年5月1日現在）

研究者・教員・学生相互の交流と連携

◎進出大学による共同研究、教員等の交流
◎単位互換の実施
◎進出大学による連携大学院の運営

進出大学の教育・研究理念の共通化

◎先端的な科学技術分野での教育・研究の展開
◎産学連携の促進
◎起業家精神の育成
◎アジアの学術研究拠点の形成

キャンパスの一体的な運営、施設の共同利用

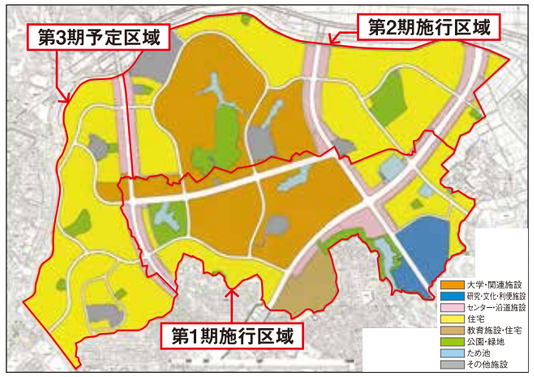
◎学研都市進出大学の代表者で構成する「キャンパス運営委員会」による共同事業の企画・立案
◎図書室、情報処理施設、利便施設の共同利用

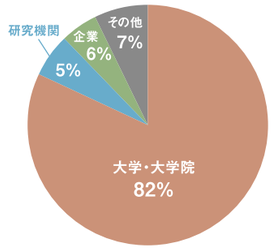
北九州学術研究都市整備事業

◎整備の基本方針
北九州学術研究都市では、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行う「複合的な街づくり」を進めています。

◎開発地域／若松区西部・八幡西区北西部
◎開発総面積／約335ha
◎計画人口／12,000人
◎整備スケジュール
第1期事業（約121ha）
平成7年度～平成18年度
事業主体:（独）都市再生機構
第2期事業（約136ha）
平成14年度～平成30年度
事業主体:北九州市
第3期事業（約68ha）
未定
河川事業（約10ha）

【土地利用計画（案）概略図】





北九州学術研究都市の昼間人口
（第1期施行区域 大学・関連施設ゾーン）

約3,500名（令和5年5月1日現在）

学生	2,409名（うち留学生784名）
教員 ※専任教員のみ	168名（うち企業出身者26名）
研究員	169名（うち外国人研究員65名）

北九州学術研究都市整備のあゆみ

平成元年（1989年）		「北九州学術研究都市基本構想」策定
平成8年（1996年）	2月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)着手
平成12年（2000年）	4月	「九州工業大学大学院生命体工学研究科」開設
平成13年（2001年）	**4月**	**「北九州学術研究都市」オープン**
		「北九州市立大学国際環境工学部」開設
平成14年（2002年）	1月	「共同研究開発センター（産学連携センター2号館）」開設
	4月	「福岡大学大学院工学研究科」開設
		「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）着手
	5月	「情報技術高度化センター（産学連携センター3号館）」開設
平成15年（2003年）	4月	「北九州市立大学大学院国際環境工学研究科」開設
		「早稲田大学大学院情報生産システム研究科」開設
平成17年（2005年）	4月	「事業化支援センター（産学連携センター4号館）」開設
平成18年（2006年）	6月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」（第1期事業）完了
平成20年（2008年）	7月	「技術開発交流センター（産学連携センター5号館）」開設
平成21年（2009年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」開設
平成23年（2011年）		北九州学術研究都市　10周年
平成25年（2013年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」開設
	10月	「産業用ロボット導入支援センター」開設
平成29年（2017年）	4月	「北九州市立ひびきの小学校」開校
平成30年（2018年）	6月	「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）完了
令和3年（2021年）		北九州学術研究都市　20周年
令和4年（2022年）	4月	「北九州市ロボット・DX推進センター」 開設

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員:1,020名
エネルギー循環化学科
機械システム工学科
情報システム工学科
建築デザイン学科
環境生命工学科

大学院国際環境工学研究科

■学生定員:346名
環境システム専攻
環境工学専攻
情報工学専攻

2 九州工業大学大学院

生命体工学研究科

■学生定員:352名
生体機能応用工学専攻
人間知能システム工学専攻
生命体工学専攻

3 早稲田大学大学院

情報生産システム研究科

■学生定員:460名
情報アーキテクチャ分野
生産システム分野
集積システム分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員:14名
資源循環・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻

※産学連携センター内

学生数および教員数

(令和5年5月1日現在)

大学	学部	修士	博士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学 国際環境工学部	1,104 (43)	ー ー	ー ー	1 (1)	0 (0)	1,105 (44)	84
北九州市立大学 国際環境工学研究科	ー ー	305 (53)	150 (135)	0 (0)	0 (0)	455 (188)	ー
九州工業大学大学院 生命体工学研究科	ー ー	217 (33)	107 (43)	3 (3)	1 (1)	328 (80)	43
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	ー ー	417 (390)	99 (78)	0 (0)	2 (2)	518 (470)	39
福岡大学大学院 工学研究科	ー ー	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	2
合計	1,104 (43)	942 (478)	356 (256)	4 (4)	3 (3)	2,409 (784)	168

( )内は留学生数

A 産学連携センター

産学連携センター 1号館

産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、100人程度まで対応できる研修室や会議室なども提供しています。

●貸研究室(31室、オフィス系)
●研修室、会議室(中・小)、特別会議室、特別応接室

B 共同研究開発センター

産学連携センター 2号館

半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習の受け入れも可能です。

●貸研究室(7室、オフィス系)
●共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置
(イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置(RTA)、ダイシングソー、ボンディング装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター 3号館

ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。半導体技術者育成のための研修室や半導体評価・解析を行う機器の開放、研究室の提供などを行います。

●貸研究室(34室、オフィス系・小規模研究室)
●半導体評価・解析を行う機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター 4号館

大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

オフィス系研究室のほか、機械系と化学系の研究室や小規模ブース単位で使用できる共同研究室を提供しています。

●貸研究室(36室、オフィス系・機械系・化学系)
●会議室(中・小)　●共同研究室(10ブース)
●シェアオフィス

E 技術開発交流センター

産学連携センター 5号館

ロボット、カーエレクトロニクス分野の技術開発支援やDXを推進する施設

ロボット導入やカーエレクトロニクスの技術開発支援、DX(IoTの導入や業務のデジタル化)を推進する施設です。また、学術研究を目的に訪れる方のための宿泊室も提供しています。

●貸研究室(48室、オフィス系・機械系・化学系)
●宿泊室(9室、シングル8室・ツイン1室)　●会議室(中・小)　●交流室(1室)

F 学術情報センター

図書室
情報処理施設

情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、遠隔会議や情報コンテンツ制作をサポートする環境を提供しています。

貸研究室賃料

◎2,000円／㎡・月(共益費別 500円／㎡・月)
(例:研究室50㎡の場合およそ150万円／年 光熱水費等別)

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、大学だけではなく研究機関および研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も13社入居しています。

進出研究機関

令和５年５月１日現在

	研究機関等の名称	入居場所	研究内容
1	北九州市立大学 環境技術研究所	北九州市立大学	地球環境の変化と地域社会の要請に応えるため、環境、エネルギー、バイオマテリアル、情報、ロボット技術等の分野の研究と技術開発を戦略的に促進
2	北九州市立大学 環境技術研究所 ・Green LPG研究室	事業化支援センター	LPガスの新技術に関する研究
3	北九州市立大学 福田研究室	情報技術高度化センター	マンション木軸材用「接着形成造作用芯材」の事業化に関する研究
4	九州工業大学 次世代パワーエレクトロニクス研究センター	九州工業大学 および 共同研究開発センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究開発
5	九州工業大学 社会ロボット具現化センター	九州工業大学 および 情報技術高度化センター	○極限環境に対応可能な特殊環境ロボット群の開発・実用化 ○医療・介護ロボットの開発・実用化 ○工場内自動化対応技術の開発・実用化 ○信頼できるロボットの実用化を支える品質保証を可能とするオープンソフトウェアの開発
6	早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学 情報生産システム 研究センター	自動車エレクトロニクスおよびLSI分野における国際的水準の高度な研究、人材育成
7	福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
8	一般財団法人 ファジイシステム研究所	共同研究開発センター および 技術開発交流センター	ファジィ理論を応用した情報処理システムに関する試験研究
9	一般社団法人 HiBD研究所	産学連携センター および 事業化支援センター	再生可能資源、炭酸ガスを原料とする液体燃料製造の研究開発
10	公益社団法人 無人機研究開発機構	産学連携センター	無人機全般についての調査、研究および技術向上についての知識の交換、情報の提供等を行う場となることにより、無人機に関する研究の進歩普及
11	公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けた、リサイクル技術の開発や社会システムの確立に取り組む産学官民による研究開発および事業化を支援
12	特定非営利活動法人 武道の学校	事業化支援センター	小型の脳活動センサーを使用し、運動時の前頭前野の血流量を計測
13	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所	事業化支援センター	竹コンポストを利用した地域における生ごみ減容の最適普及促進の実証研究
14	福岡県リカレント教育普及協会	事業化支援センター	リカレント教育の研究･普及、社会人･学生（とりわけ女性）の職業能力開発

進出企業

令和５年５月１日現在

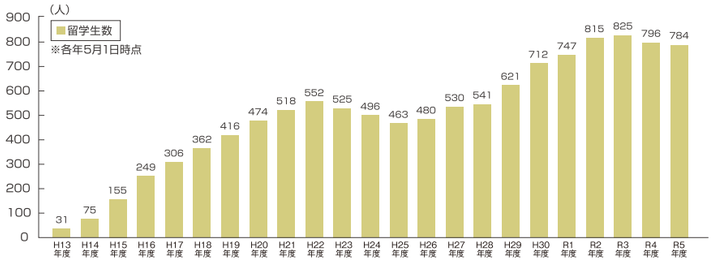
	入居場所		企業名	事業内容
1	産学連携センター		㈱インフォグラム	システム開発、パソコン教育サービス、インターネットサービスおよび前各号に付帯関連する一切の業務
2			石田特許事務所	特許、及び実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング
3			プラントメイクRISE㈱	焼却炉設備におけるコーティング剤開発、３Dスキャナーによる構造計算ソフトの開発
4			㈱コイシ	建設現場における技術開発
5			㈱アイシン	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発
6	共同研究開発センター		㈱セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守（24時間365日）
7			㈲K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発
8	情報技術高度化センター		㈱Windy	病院、薬局で使用するソフト開発、自動車工場での作業分析ソフトの開発
9			三島光産㈱	薬剤自動除包分配機及び調剤薬局関連機器の開発、製造
10		●	RoboPlusひびきの㈱	メカトロニクス設計・製造及び販売、コンサルタント業
11			㈱ITS	組み込みシステムの設計・開発および、半導体集積回路等電子部品の研究開発
12			㈱シンコム	半導体関連及びAI事業の受託設計
13		●	㈱環境フォトニクス	植物育成用ＬＥＤ光源等の研究・開発・販売
14			㈱華仁サービス	外国人留学生の誘致及び就職に関するマーケティング戦略の研究
15	事業化支援センター	●	㈲ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発
16		●	実研開発㈲	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置の開発・販売
17		●	㈱プラテック	Webシステム開発、アカデミックソリューション事業
18			アネーラ税理士法人	監査業務、各種税務書類の作成、税務代理、税務相談、税務コンサルティング
19			㈱AKシステム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野（医療・福祉等分野）への応用研究開発
20		●	アーティックス㈱	IoT、人工知能、ブロックチェーンなどに関する研究開発
21			豊光社テクノロジーズ㈱	分子接着技術を用いた曲面配線技術及び高輝度・高信頼性LED照明の研究開発
22			レアメタル技研㈱	リチウム吸着剤の大量合成による事業化
23			環境エネルギー㈱	バイオジェット燃料の開発・実用化、バイオディーゼル燃料の高品質化
24		●	ひびきの電子㈱	電界共振型生体センシング及びセンシングデータ解析システムの開発
25			（同）キューカル	組み込みソフトウェアの研究開発
26			㈱ワークス	ワイヤレス給電技術を利用した消化管内自走式カプセル内視鏡の開発
27		●	㈱ロボサイエンス	小型水中ロボット（船底清掃ロボット等）の開発
28			㈱アポロジャパン	スクリーンコードおよび自動運転の基盤技術開発
29			HMコネクト	除菌・抗菌・消臭液の効果検証及び効果持続性のある商品の開発　クリスタル硝子内部にレーザー彫刻した絵柄のLED照明演出装置開発
30		●	（同）数理科学研究所	数理科学に関する研究及び開発事業
31			（一社）進路指導・キャリア教育支援機構	中等教育における進路指導・キャリア教育・就職指導の研究
32		●	ハインツテック㈱	細胞内への物質導入・細胞内物質抽出のための、ナノ構造体を用いたツールの開発・製造、およびそれらを用いた研究開発支援
33			クサカキカク	高齢者用、子ども用靴下の滑り止め素材、本体の素材、その他関連製品の研究開発
34			LOVO&Co.	クラウド上の生産設備を利用するスマートファクトリーの構築
35			（同）ノーエン	農業における気象データ活用に関わる研究・開発
36			フォースウェーブ・パートナーズ㈱	ロボットを使った自動化・省力化システムに伴う、ソフトウェアの開発システムの実証作業
37		●	（同）共創テクノロジー	VR、Webシステムなどソフトウェア研究開発、イベント制作、3Dプリンティング技術に関するコンサルティング
38			SKO㈱	自動車製造工程におけるシステム管理の効率化を目指し、学研都市の大学と連携した研究
39	技術開発交流センター		㈱シキノハイテック	半導体設備の設計/製作/調整、LSI回路設計/レイアウト等
40			吉川工業㈱	RF-IDに関する研究開発事業
41			㈱C&Gシステムズ	金型設計・加工用CAD/CAMソフトウェア開発
42			シャボン玉石けん㈱	無添加の化粧石けん、家庭用洗浄剤、消火剤などの製造販売
43			㈱トリコ	電気部品の開発・修理
44		●	㈱FILTOM	プラセンタエキス（豚胎盤液）を使った化粧品の開発・製造・販売
45		●	㈱セキュアサイクル	行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発およびセキュリティ事業
46			KOA㈱	電子部品、センサ素子、センサモジュールに関する情報収集、情報交換ならびに産学共同開発

※●印は学研発ベンチャー企業（13 社）

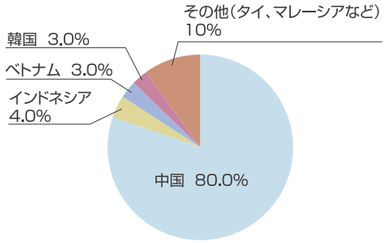
アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳(28か国)】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

FAIS留学生就職支援プログラム事業の運営

北九州学術研究都市内の2大学(北九州市立大学、早稲田大学)の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。令和4年度は就活セミナーはオンラインと一部対面、就活日本語は対面で実施。

●受講生　26名(北九州市立大学3名、早稲田大学23名)
●プログラム
・就職支援講座(就活セミナー、模擬面接セミナー、就活カウンセリング、身だしなみ・マナー講座 等)
・就活日本語講座

語学教育センターの運営

留学生を対象に、日本語の講座を開講する語学教育センターを運営しました。令和4年度は、春期はオンライン、秋期は対面で実施。

●日本語クラス／春期　初級1.2.3.4、JLPT受験対策N1.N2.N3 (8クラス)
秋期　初級1.2.3.4、初中級、中級(前半)、中級(後半) (8クラス)
●令和4年度受講者／163名

留学生交流事業への助成

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

留学生への宿舎の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舎を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」(1人年間60万円)を給付しました。

●令和4年度受給者数／20名

冠奨学金の給付

高度人材として国内外で活躍が期待される学研都市の留学生と地域企業等のネットワーク構築支援を目的として創設され、株式会社牧野フライス製作所から寄付金(総額60万円)をいただき奨学金を給付しました。

●令和4年度受給者数／1名

海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定 (令和5年5月現在)

【北九州市立大学国際環境工学部・同研究科・環境技術研究所(40機関)】
インド:インド工科大学ボンベイ校、フランス:パリ大学、
中国:大連理工大学、ベトナム:ベトナム国家大学ハノイ校
タイ:タマサート大学　他35機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科(15機関)】
韓国:世宗大学校ソフトウェア融合学部
フランス:ボルドー工科大学ENSEIRB-MATMECA大学院
トルコ:コンヤ工業大学工学自然科学部　他12機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科(54機関)】
中国:北京大学、台湾:国立成功大学、韓国:全南大学校、
タイ:タマサート大学、フィリピン:アテネオ・デ・マニラ大学　他49機関

海外の研究機関等との交流協定

FAISは、台湾のサイエンスパークや中国の上海交通大学および韓国の韓国科学技術院(KAIST)・釜山大学校と交流協定を締結しています。

●平成16年／台湾　新竹サイエンスパーク、南部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成19年／中国　上海交通大学との交流協定締結
●平成21年／台湾　中部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成27年／韓国　韓国科学技術院(KAIST)、釜山大学校との交流協定締結

広報活動

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

令和４年度報道件数／99件
(内訳：テレビ・ラジオ等32件、雑誌8件、新聞59件)

国内外研究者等の受け入れ

北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

令和４年度視察者数／1,023人

市民も利用できる共同利用施設の運営

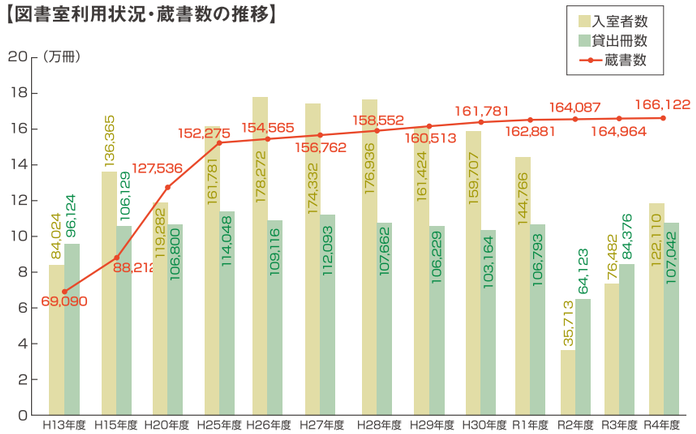
学術情報施設

市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ(Web)会議ができる遠隔講義室等を備えています。

学術情報センター

【図書室利用状況・蔵書数の推移】



コンベンション・体育施設

会議場／大型映像装置や同時通訳設備を備えた460席の会議用ホールで、講演会やセミナー、学会や国際会議等に利用できます。懇親会や展示会等に活用できるイベントホールを併設しています。

会議室／数人から200人規模まで、ニーズに応じた様々な形態の会議や研修、地域活動等に利用できます。

体育施設／ 大学の授業やサークル活動の時間以外は、地域や有志クラブ等の活動に利用できます。
(体育館・運動場・テニスコート)

会議場(外観)

会議場(メインホール)

会議場(イベントホール)

会議室

研修室

体育館

運動場

テニスコート

北九州学術研究都市20周年記念事業イベント

20周年記念フォーラム

＜開催趣旨＞『北九州学術研究都市』開設20周年を機に、これまでの成果を確認し、将来像を検討するとともに、内外に学研都市の魅力を発信するため、20周年記念フォーラムを開催しました。
＜開　催　日＞ 10月20日(木)･21日(金) ＜参加者＞780名
＜会　　場＞ 北九州学術研究都市会議場メインホール

１０月２０日（木）	１０月２１日（金）
13:30～15:00 **基調講演** **「21世紀のビジョン・プラチナ社会」** ㈱三菱総合研究所　理事長　小宮山　宏　氏	10:00～12:00 **「日台サイエンスパーク連携セミナー」** (台湾)新竹科學園區管理局、中部科學園區管理局、南部科學園區管理局、國家實驗研究院台灣半導體研究中心など (日本)北九州市立大学、九州工業大学大学院、早稲田大学大学院、FAIS
15:15～17:00 **「学研都市の長期的な戦略等を語る会合」** 北九州市立大学、九州工業大学大学院、早稲田大学大学院等	13:00～16:50 **「学研都市のハイライト」** 北九州市立大学、九州工業大学大学院、早稲田大学大学院、福岡大学大学院、産業医科大学、福岡県リサイクル総合研究事業化センター、㈱コイシ、㈱シキノハイテック、シャボン玉石けん㈱、㈱セキュアサイクル、㈱FILTOM、㈱ブラテック
17:30～19:00 **交流会**	

20周年冠事業

学研都市にて開催したイベント等に「20周年」の冠をつけることで、内外に周年事業の開催周知に努めました。

開催日	イベント名	内　　容	参加人数
7～9月	図書貸出カードデザインコンテスト	図書室開館20周年記念として、一般図書室の図書貸出カードのデザインを募集(対象:小学生)	16名
8/4(木)～11/29(火)	インボイスセミナー	R5年10月にスタートするインボイス制度についてのセミナー(対象:市内中小企業者)	108名
9/17(金)～10/22(土)	実践起業塾	北九州市内で創業予定の方、創業間もない方を対象に必要なスキルを提供する起業セミナー	13名
10/1(土)	ドローンプログラミング教室	学研都市と子供たちの未来を見据えた、学術情報センターPR事業(対象:小学生)	28名
10/18(火)	半導体技術者検定3級対策セミナー	半導体技術者検定エレクトロニクス3級の事前対策セミナー	10名
11/13(日)	謎解きゲーム	図書室を中心に学術情報センター全体を使って、謎を解きながらゴールを目指すゲーム　★ひびきの祭同時開催	500名
11/15(火)	個人事業者のための確定申告セミナー	確定申告について理解を深めてもらうためのセミナー	14名
12/1(木)～12/28(水)	学術情報センター前広場イルミネーション	「冬のひまわり」「光の植物園」をコンセプトに生体への負担(主に睡眠障害)が少ないライトアップイベント	－
12/10(土)	アインシュタイン来日100周年記念サイエンス・サロン	アインシュタインの来日から100年、メンデル生誕200年、北九州市科学館(スペースLABO)リニューアルオープンなどを記念し、「科学の進歩」と「地域の科学史・産業技術史」に関するサイエンス・サロン	31名

20周年記念コンベンション開催助成金

学研都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めました。

- **九州工業大学大学院『みんなが集える働く場の“ノーマライゼーション”を考える』**
  開催日:令和4年7月20日(水)　参加人数:45名
- **早稲田大学大学院『第１６回ＩＰＳ海外連携シンポジウム（ＩＳＩＰＳ２０２２）』**
  開催日:令和4年11月10日(木) ～11日(金)　参加人数:155名
- **北九州市立大学『学研都市ひびきのアイデアソン２０２２ インターナショナル』**
  開催日:令和4年12月3日(土)　参加人数:32名

地域交流イベントの開催

第18回 北九州学術研究都市ひびきの祭（20周年記念事業）

地元自治会など地域の方々との協同による「ひびきの祭」を開催し、多くの方へ科学やものづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日　程／ 令和4年11月13日(日)
会　場／ 北九州学術研究都市
内　容／ 【FAIS 企画】
・笑ってタメになるサイエンスショー　・ものづくり教室
・学研おもしろ探検クイズラリー　・謎解きゲーム
・図書雑誌リサイクルフェア
【地域団体等企画】
・ひびきの秋祭り2022
＜屋外ステージ、まちの保健室、地域出展など＞
・あんぜん教室
＜自転車運転シミュレーター、地震体験車、消防車など＞
来場者／約 3,000 人

北九州学術研究都市サイエンスカフェ　※ひびきの祭同時開催

学研都市の研究者が市民の輪に入って科学の話題を提供、参加者がともに考えながら、科学技術に対する理解と関心を高めることを目的に開催しました。

日　程／ 令和4年11月13日(日)
会　場／ 北九州学術研究都市　遠隔講義室1
テーマ／「身の回りのもので距離を測ってみよう!」
参加者／ 36人

デジタルクリエイター教室（20周年記念事業）

ひびきの小学校(5年生全員)を対象に、学校に整備されたタブレット端末を使って映像制作が自分でできるよう、デジタルの基本スキルを楽しく学び、実践する教室を開催しました。

日　程／ 令和4年11月16日(水)～17日(木)
会　場／ 北九州学術研究都市　遠隔講義室1
参加者／ 260人

ドローンプログラミング教室

市内の小学生を対象に、“わくわくドキドキ”、プログラミングをしながらドローン飛行体験ができる教室を大好評開催しました。

日　程／ 令和4年10月1日(土)
午前の部:10時～12時
午後の部:14時～16時
会　場／ 学術情報センター1階　講義室2･3
内　容／ 前半30分:座学　後半90分:実技
参加者／ 28名

図書カードデザインコンテスト

カードデザインとして採用された優秀作品

学術情報センター図書室開室20周年を記念して、小学生を対象に一般図書室の貸出カードデザインを募集しました。

募集期間／ 令和4年8月1日(月)～9月29日(金)
作品テーマ／ 未来の北九州学術研究都市
応募資格／ 市内在住および在学の小学生
応募総数／ 16点

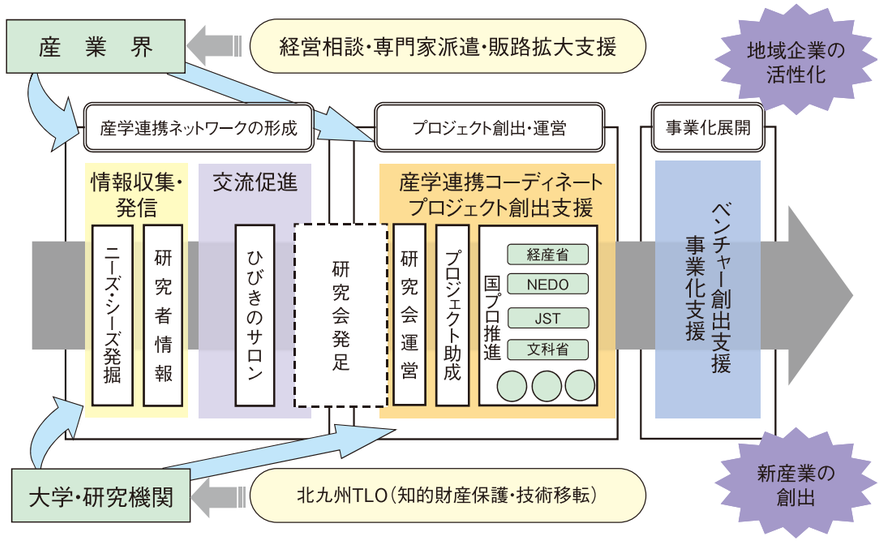
謎ときゲーム「消えたがっちゃんを探せ！」

学術研究都市内の学生や、近隣の住民の方々に、もっと図書館に親しんでいただくことを目的として開催しました。

日　程／ 令和4年11月13日(日)
会　場／ 学術情報センター1階および図書室
内　容／ 何者かによってさらわれた、学術情報センター図書室非公式キャラの”がっちゃん”を、館内にちりばめられた謎を解き、救出するゲーム
参加者／ 500名

産学連携の推進、生産性向上等の取組

産学連携の取り組み（全体フロー）



情報収集・発信、産学交流の促進

学研都市内研究者の情報提供

●FAISのHP上に「研究者情報検索システム」を構築
　――技術キーワードや所属、研究者名等で検索可能

●検索システムの情報を基に「北九州学術研究都市の研究者情報」（リーフレット）を作成

毎年、市内外の企業等に配布
【令和4年度配布数】　1,500部

研究者情報
検索システム
TOP画面

研究者情報
（リーフレット）

メールマガジンによる情報発信

●「産学連携センターNews」を配信（平成16年9月～）
　セミナー情報や産学連携に関するトピックを随時掲載

◎配信先　約6,300件
◎配信件数　通算1,042通配信（令和5年3月31日現在）
◎毎週月曜日配信

常設の産学交流の場

産学交流サロン（ひびきのサロン）の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから令和4年度までに200回開催し、のべ19,113人の方が参加しています。

【令和４年度実績】

回	テーマ・講座名	発表者	参加者数
第 198 回 10/7	「産業界で活躍する技術系人材に求められるものとは」 ～第9回連携大学院交流会～	三菱自動車工業株式会社 第二車両技術開発本部 先行技術開発部　技術総括 本田　慎一朗　氏　　他３名	45名
第 199 回 10/28	北九州市立大学 「超高齢化社会に対応する先制医療工学研究拠点」シンポジウム 「バイオテクノロジーと情報技術の融合による新しい産業の創生」	奈良先端科学技術大学院大学 理事・副学長 太田　淳　氏　　他2名	188名
第 200 回 11/10,11	合同企画 第200回産学交流サロン「ひびきのサロン」& 第16回IPS海外連携シンポジウム（ISIPS2022）	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科　教授 巽　宏平　氏　　他3名	155名
第 201 回 11/19	第62回北九州医工学術者会議 「医・歯・工のさらなる連携を目指して」	九州工業大学大学院 工学研究院　教授 竹中　繁織　氏　　他6名	35名
第 202 回 1/19	北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業 専門技術者育成カリキュラム 「最新の日産EV/e-POWERシステムの技術解説と部品構成」	日産自動車株式会社 車両計画・性能計画部 パワートレイン・BEV・HEVシステム設計グループ　主担 伊藤　知広　氏	44名
第 203 回 2/21	令和4年度 北九州市・FAISサプライヤー応援隊現場派遣事業および北九州市ロボット・DX推進センター5S等専門家派遣事業　成果発表会	株式会社ニッショウテクノス グループリーダー 岡崎　智司　氏　　他2名	48名
合　計			515名

※法人名は、サロン開催時の名称です。

産学共同による研究会の企画運営

令和４年度研究会活動

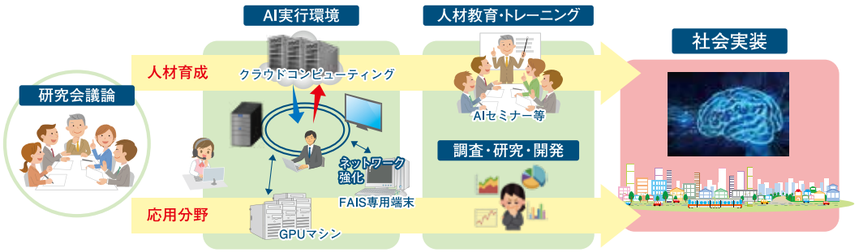
先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや、事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めています。

研究会の取り組みは、国等プロジェクトの採択につながっています。

令和4年度は「ひびきのAI社会実装研究会」など9の研究会を運営しました。

ひびきのAI社会実装研究会

企業ニーズと学研都市研究者の技術シーズのコーディネートを行い、AIを活用した電力需要の予測システムの確立・自動化など様々なテーマについて研究開発を進めています。また、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術（スパースモデリング）や、実時間処理や低電力消費を実現するAI向けのハードウェアの研究開発を支援します。



研究開発支援

企業・大学等が実施する研究開発に対する支援

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発のために補助金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度（令和４年度）

◎研究開発プロジェクト支援

名　称	概　要	対象者	補助額（補助率）	助成期間
シーズ創出・実用性検証事業	産業振興の促進に資する分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための研究開発に対して補助金を交付	市内大学等 (1)若手･チャレンジ枠 (2)一般枠	100 万円以内（1/1） ※生産性向上に資するロボット等に関するものは300万円以内	単年度
実用化研究開発事業	産業振興の促進に資する分野において、技術の高度化・製品の実用化並びに新産業の創出を目指す研究開発に対して補助金を交付	市内企業等	中小企業 500万円以内(2/3) そ の 他 500万円以内(1/2)	単年度

令和４年度採択実績

【シーズ創出･ 実用性検証事業】23件

	採択テーマ名	申請大学等
若手・チャレンジ枠	旋回窓の視界性向上に向けた3Dプリンタによる試作開発と機能性評価	北九州市立大学
	航空レーザ計測により得られた点群からの不要点自動除去アルゴリズムの開発	北九州市立大学
	柔軟メカニズムを応用した2自由度手首関節機構の開発と小児筋電義手への応用	早稲田大学
	現場特有のエッジAIのためのマルチタスク学習を達成するマルチリードアウトレザバー	九州工業大学
	IoT機器用自立電源として活用可能なハロゲン化ペロブスカイト熱電変換材料の開発	九州工業大学
	段差踏破が可能な伸縮脚を有するリムレスホイール型ロボットの開発	九州工業大学
	導電性スポンジを利用した触覚を有する真空吸着パッドの開発	九州工業大学
一般枠	Bioactive glass配合再生医療材料を用いた象牙質･歯髄複合体再生治療法の確立による歯の保存	九州歯科大学
	幹細胞の運命決定を可視化し運動器再生医療を加速させるツールMscPrismの応答感度を改良し実用化に向け前進する	九州歯科大学
	テープ状形状記憶合金素子を用いたリハビリトレーニングロボットグローブ用骨格構造アシスト機構の開発	北九州市立大学
	異物探索効率を高める食材用照明のための調光調色技術の開発	北九州市立大学
	移動型アーム式ロボットによる縦型木材積層構法を用いた木造住宅建設法の開発	北九州市立大学
	振動スピーカを用いた超小形軽量歩行促進器の実用化開発と検証	早稲田大学
	介護職員の腰痛リスクを低減する技術の実用化開発と検証	九州工業大学
	組換えタンパク質の高効率生産を目指した機能性ペプチド発現植物の構築	九州工業大学
	高温廃熱回収に向けた薄膜状酸窒化物熱電素子の開発	九州工業大学
	新規環状ビスナフタレンジイミド修飾電極によるCOVID-19検出の試み	九州工業大学
	ダイヤモンド超高耐圧パワーデバイスの実用化に向けた微細化プロセスの確立	九州工業大学
	遠隔医療／看護ロボットに搭載できるビデオカメラの目とジェット流のデバイスを用いたハイブリッド型高精度血圧連続計測システムの開発	九州工業大学
	吊り下げられた対象物を高速視覚制御するための三次元追跡技術の開発	九州工業大学
	深層強化学習とARによる難把持物体の最適ピック&プレイスの自律作業化とロボット導入コストの低減	九州工業大学
	柔軟不定形物の疑似骨格推論ニューラルネットワークモデルの構築と,骨格情報を含んだデータセットの半自動生成法	九州工業大学
	超音波を用いた食品内および食品裏の異物検知に関する研究	九州工業大学

【実用化研究開発事業】4件

採択テーマ名	申請企業等
非溶解型美容用マイクロニードルの実用化	三島光産(株)
タブレットを用いた高齢者向けの水分補給促進アプリ(ツール)の実用化開発と検証	BlancheNeige　山内 幸治
北九州産の希少な完全非加熱ミルクセラミド原液の量産化開発	(株)FILTOM
血球系浮遊細胞を標的とするナノ注射器と物質導入システムの開発	ハインツテック(株)

◎旭興産グループ研究支援プログラム

名　称	概　要	対象者	補助額（補助率）	助成期間
若手研究者ステップアップ支援	旭興産グループの支援を得て、新しい時代に予見される課題の解決につながるテクノロジーの研究（斬新、独創的かつ挑戦的で将来の発展が見込まれるものに限る）に対し補助金を交付	北九州市内に設置された大学等に所属する研究者で、かつ、 ア 39歳以下 イ 博士学位取得後8年未満のいずれかを満たす者	Aタイプ　Bタイプ 初年度　500万円　200万円 2年度　300万円　200万円 3年度　200万円　100万円 計　1000万円　500万円 ※研究開発予算に応じて、A･Bタイプを選択（1/1）	3年以内

令和４年度採択実績

【若手研究者ステップアップ支援】2件

採択テーマ名	申請大学等
天然歯と同様の機能をもつ次世代人工歯の開発	九州歯科大学
温泉バイオエンジニアリングを用いた生物学的メタネーション	北九州市立大学

FAIS助成制度の主な成果事例（令和４年度採択テーマより）

【研究テーマ】北九州産の希少な完全非加熱ミルクセラミド原液の量産化開発

【申請企業】株式会社ＦＩＬＴＯＭ

市内の牧場である濱崎デイリーファームやアレルギーテスト法開発を担当した北九州市立大学などと連携し、牛乳を使用した化粧品用新素材「生ミルクセラミド」の開発に世界で初めて成功しました。また「生ミルクセラミド」を配合した化粧品も同時に開発し、R5年4月から販売を開始しています。

生ミルクセラミド（左）と一般的な加熱ミルクセラミド（右）

濱崎デイリーファーム

生ミルクセラミドm9シリーズ（化粧品）

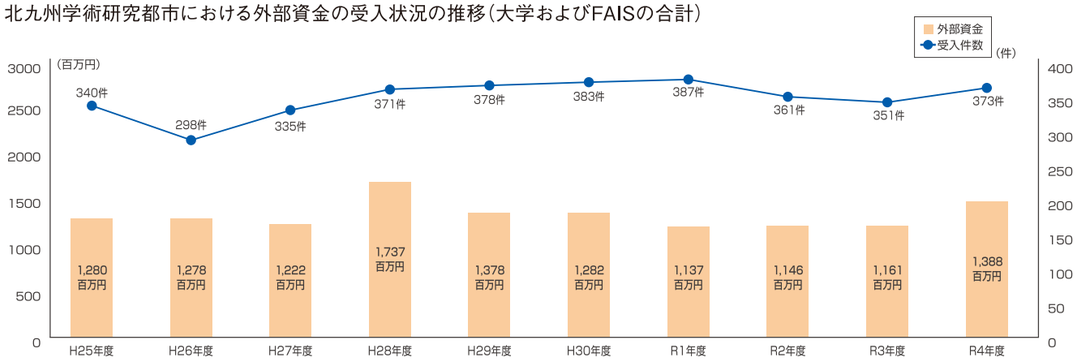
国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

「成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省）」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

令和4年度は、各大学における受託研究等と合わせて373件のプロジェクトに取り組みました。

外部資金の積極的な獲得

北九州学術研究都市における外部資金の受入状況の推移（大学およびFAISの合計）



近年の主な研究開発プロジェクト

経済産業省	
次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億2,264万円
三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億2,580万円
5G対応高周波用材料(ガラス･セラミック･テフロン等)への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応次世代メッキ技術の開発	R1年度～R2年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億154万円

内閣府	
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	H26年度～H30年度
【戦略的イノベーション創造プログラム（SIP)】	8億4,000万円

ＪＳＴ	
スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点	H27年度～H28年度
【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム】	3億3,500円

文部科学省	
IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業	H28年度～R2年度
【地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】	2,150万円
微細加工プラットフォーム	H24年度～R3年度
【ナノテクノロジープラットフォーム事業】	1億円

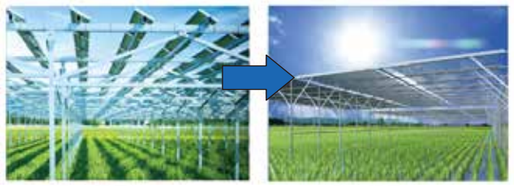
FAISが支援した研究開発プロジェクトの主な事例（Go-Tech、サポイン）

経済産業省補助事業	研究開発名 / 企業（補助事業期間）	支援内容
Go-Tech事業	港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発 / 株式会社シスコム（令和4年度～5年度）	応募申請支援、初年度研究支援
サポイン事業	三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発 / 株式会社コイシ（令和元年度～3年度）	補助事業終了後の事業化支援
サポイン事業	次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発 / 株式会社フジコー（令和元年度～3年度）	補助事業終了後の事業化支援

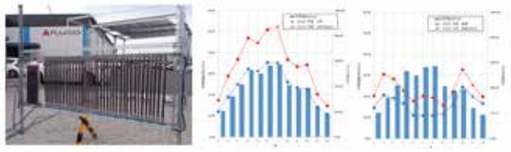
サポイン取組事例「次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発」

■世に無い円筒型太陽電池を世界に先駆けて規格化・標準化

・日本規格協会に相談の上「新市場創造型標準化制度」を利用した国際標準化(ISO･IEC)、国内標準化(JIS)を目指す。⇒標準化必須の特許によるライセンス収入



平型太陽電池システム ⇒ 円筒型太陽電池システム



	平板水平	平板垂直	円筒水平	円筒垂直
円筒水平	1.45	2.17	1.00	1.52
円筒垂直	0.96	1.43	0.66	1.00

➡ 円筒型の有効性を確認

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO（Technology Licensing Organization）」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果（発明）を特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。

北九州TLOの仕組み・特許出願等

研究成果提供大学等 九州工業大学、産業医科大学、北九州市立大学、九州歯科大学、西日本工業大学、九州共立大学、中村学園大学、北九州工業高等専門学校

これまでに事業化･製品化された事例（一部掲載）

「発明の名称」（事業化・製品化の概要）	「発明者・研究代表者」
「界面活性剤系組成物」、「水添加型の消火剤」（環境にやさしい世界初の石けん系消火剤）	北九州市立大学　上江洲一也教授、河野智謙教授 他
「解剖台」（医学実習用ホルムアルデヒドの直接暴露防止）	産業医科大学　大和 浩教授、菊田影夫教授 他
「マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置」（環境にやさしいマイクロ波を用いた減圧乾燥方法）	九州工業大学　鶴田隆治教授 他
「曳糸性測定装置」（あらゆる流動物質のネバネバ度を測るシンプルなメーター）	九州歯科大学　西原達治教授、柿木保明教授 他
「アスペルギルス属菌及びリゾープス属菌の混合培養系を用いたアミラーゼの生産方法」（高い酵素活性や豊富な酸を特性とした新しい麹菌）	北九州市立大学　森田洋教授 他

環境にやさしい世界初の石けん系消火剤

製品化企業：シャボン玉石けん㈱

環境にやさしいマイクロ波を用いた減圧乾燥方法

製品化企業：西光エンジニアリング㈱

あらゆる流動物質のネバネバ度を測るシンプルなメーター

製品化企業：㈱石川鉄工所

技術拠点化の推進

半導体・研究開発技術拠点化の推進

半導体産業関連企業支援

半導体設計ツールやＩＣ・ＭＥＭＳ微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

■ＩＣ・ＭＥＭＳ微細加工環境の提供

共同研究開発センターでは、ＩＣ・ＭＥＭＳなどを作製する微細加工設備を提供しており、大学・研究機関、企業などの基礎研究からプロトタイプ試作まで幅広く支援しています。

■半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコープ等の解析機器及び環境評価装置など、充実した評価・解析環境を提供しています。

半導体技術者育成講座（ひびきの半導体アカデミー）の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」を見直し、市域企業や高専等ニーズを反映した、半導体のものづくりの全体像が分かる基礎教育を提供しています。

・半導体前工程プロセスエンジニア基礎講座
・半導体活用基礎講座
・半導体ものづくり（LSI）基礎講座
・半導体ものづくり（パワーデバイス）基礎講座など

●令和４年度／講座数　３講座、参加者数　139名

自動車技術拠点化の推進

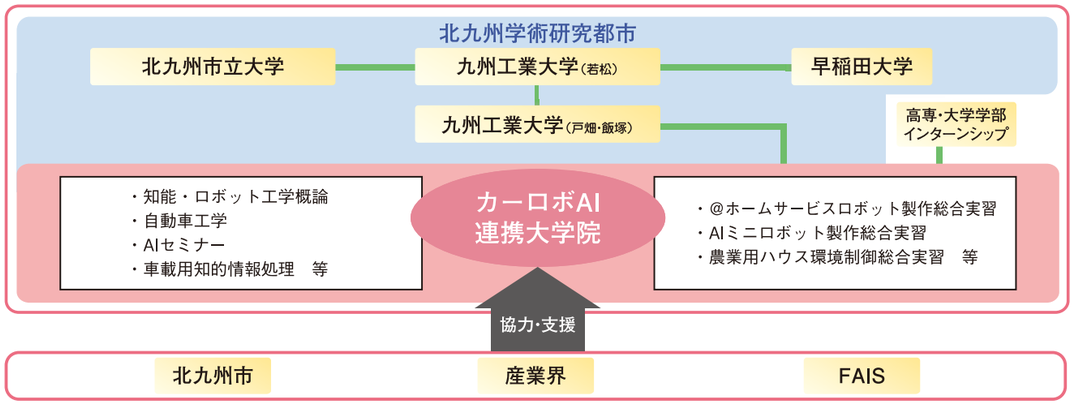
北九州地域における次世代自動車技術の拠点化を目指し、北九州学術研究都市における高度人材の育成を支援するとともに、産学連携による先端的研究開発を支援しています。

人材育成の推進

連携大学院

自動車とロボットの分野で次世代を担うリーダーとしての高度専門人材の育成を目的に、学研都市の3大学が運営する連携大学院の教育プログラムを支援します。

同大学院では、人工知能（AI）の研究開発を担う人材育成が急務であることを踏まえ、令和元年度からこれまでの「カーエレコース・カーロボコース・AIサブコース」を統合し、「カーロボAI連携大学院」に再編し、更なる教育内容の充実を進めます。



地場企業支援

CASEといった言葉に代表される、100年に一度の大変革の真っただ中にいる自動車産業界において、企業のCASE対応、生産性向上、ものづくり力の向上、企業の人材育成の拡充などを目指して、地場企業を支援しています。

北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業

①人材育成事業

企業の階層別に必要な能力を整理し、それぞれに必要なスキル・技能を学べるようなカリキュラムを編成しています。最新の自動車部品に搭載されている技術や開発動向、自社内で体系的な人材育成体制を整備できない中小サプライヤーの技術者向けの内容も意識して、取り組んでいます。

若手・中堅技術者育成カリキュラム	リーダー・幹部育成カリキュラム	専門技術者育成カリキュラム
内容 1.CASEに対応する自動車最新動向 2.監督者の役割 3.生産活動の基本 4.現状分析とムダの発見 5.生産現場の改善　など	内容 1.CASEに対応する自動車最新動向 2.管理・監督者の役割について 3.方針管理について 4.人材育成について 5.原価管理・生産管理について 6.生産性向上について 7.グループ討議　など	内容 今後、普及が予測される大幅な開発効率化のために必要な「モデルベース開発（MBD）について」、また電動化に関して、最新の自動車部品モジュールに搭載された部品の技術動向、構成についての勉強会など

・受講者のフォローアップ（アンケート、ヒアリング）
・困りごと、課題など調査

②現場派遣事業

アドバイザーを派遣し、自動車メーカーのノウハウを活用した企業診断により、原価企画の徹底、標準化のための取組等、技術改善、経営改善、CASEに対応する新技術導入などをサポートします。

研究開発の推進

学研都市の研究シーズを活かした産学連携による研究開発をコーディネートし、次世代自動車技術やAIの社会実装に向けた研究開発機能の拠点化を目指します。

東田MaaSプロジェクト

大型商業施設や文化施設等が設置されている八幡東区東田地区において、当該地区の経済活性化と交通環境の維持・改善に寄与するために、地域の住民や来訪者に対して最適な交通手段を提供する移動サービス（MaaS）に関する研究開発などを行っています。

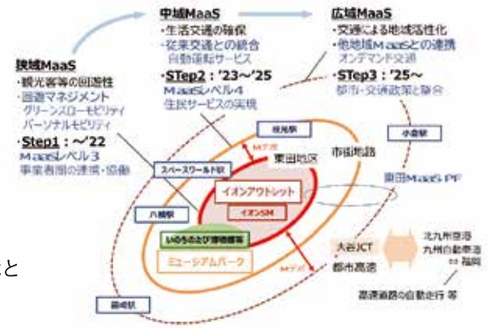
<活動内容R4>
EVバス、グリーンスローモビリティ（APM）による、東田地区回遊の実証実験を実施。

<実行体制>
東田モビリティ協議会

<モビリティ構想（イメージ）案>
・東田エリアの商業施設、文化施設、観光施設を結節点と結ぶモビリティの開発
・起点から目的地までのモビリティサービスの提供

⇨

・誰も（高齢者、訪日客等）が負荷なく移動できる
・車によるアクセスから公共交通へのシフト



自動運転に関する研究開発

北九州自動運転推進ネットワークを主体とし自動運転技術の実用化と新ビジネスの創出を図ります。

<活動内容R4>
①自動運転実証　実施地域調査　②講演会開催
③大津市自動運転実証ヒアリング

目的

地元企業の参画　産学連携の推進　新ビジネスの創出

自動運転分野への新規企業等の参画を図り、研究機関と連携することで、新ビジネスの創出を目的とする。

会員　**17団体（令和4年度）**

産：西日本鉄道㈱　西鉄バス北九州㈱　BOLDLY㈱　先進モビリティ㈱　第一交通産業㈱　日本信号㈱　愛知製鋼㈱　㈱ゼンリン　㈱YE DIGITAL　㈱ラック　㈱アポロジャパン　ブリヂストンタイヤソリューションジャパン㈱　A-Drive株式会社　計13社

学：北九州市立大学（牛房教授、永原教授、松田教授）
九州工業大学（大屋教授、田向教授、我妻教授）

官：北九州市産業経済局　北九州市建築都市局
北九州産業学術推進機構(FAIS)【事務局令和4年度から】

中小企業へのロボット導入支援、DX推進

北九州市ロボット・ＤＸ推進センター

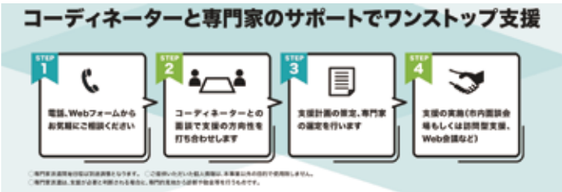
北九州市ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するために、2022年4月から活動を開始しました。

当センターでは 導入支援 操作体験 人材育成 等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援しています。

また、集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たしています。

ワンストップ相談窓口の運営

ワンストップ相談窓口では、ロボット導入や、デジタル技術を活用したDXの推進に関する相談を受け付け、コーディネータによる支援計画の作成や専門家による伴走支援を行います。



【ワンストップ相談窓口連絡先】
https://ktq-robodx.jp/
TEL：093-695-3090
（受付時間：平日9時～ 17時）

ワンストップ窓口　専門家・コーディネータ派遣実績件数

	R4 4月末時点	5月末時点	6月末時点	7月末時点	8月末時点	9月末時点	10月末時点	11月末時点	12月末時点	R5 1月末時点	2月末時点	3月末時点
相談受付件数	9	14	13	8	13	5	6	11	10	4	4	8
初回面談	7	5	7	9	8	4	7	10	7	4	3	4
専門家派遣	10	14	14	18	28	32	28	39	22	32	36	26
相談受付件数（累計）	9	23	36	44	57	62	68	79	89	93	97	105
初回面談（累計）	7	12	19	28	36	40	47	57	64	68	71	75
専門家派遣（累計）	10	24	38	56	84	116	144	183	205	237	273	299

ロボット導入支援等に関する取り組み

ロボット技術開発拠点化の推進・中小企業へのロボット導入支援

ロボット研究開発支援

●ロボット関連プロジェクト支援
●実証・事業化の支援
●ロボット産業マッチングフェアの開催
●各種技術セミナーの開催

開発支援したロボットの成果報告会

※北九州ロボットフォーラムの事務局として新ロボット開発を推進

産業用ロボット導入支援・人材育成

●ロボット導入による生産性向上支援
●ものづくり人材育成講座の開催
●ものづくり企業への現場派遣
●各種補助金の申請支援
●システムインテグレータとの連携推進
●ロボット導入につながる情報提供
●生産性向上スクールの開催、
　工業高校インターンシップ受入

産業用ロボット導入支援センターの設備

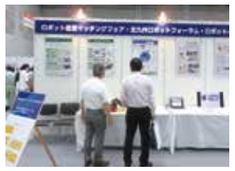
※ロボット・DX 推進センターを拠点として、ロボット導入に関わる取り組みを実施

【令和4年度の取り組み】

ロボット研究開発支援

研究開発支援

—開発支援ロボットの出展—
ロボット産業マッチングフェア開催



ロボット産業マッチングフェアを主催し、研究開発支援を行ったロボットの展示や、市内を中心としたロボット関連企業に出展いただき、広報活動の支援を行った。

—学生向け競技会の後援—
第9回トマトロボット競技会
ロボメカデザインコンペ2022

地域の教育機関が中心となり開催している学生向け各種競技会に対する後援を通じて、ロボット研究開発への活動支援を行った。

産業用ロボット導入支援

導入支援・人材育成

ロボット・DX推進センターを拠点として、市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

●ロボット導入に関する企業訪問・技術相談
●人材育成（ロボット技術者およびシステムインテグレータ）
●ロボット導入に関する情報発信

令和4年度の活動内容
●ロボット導入支援
　北九州市産業用ロボット導入支援補助金　4社
　産業用ロボット等の導入前検証事業　5社
●現場派遣・技術相談
　市内企業：163件、市外企業：11件
●生産性向上スクール
　ロボット編5講座、のべ38名の参加者
●システムインテグレータ・ネットワーク推進
●工業高校インターンシップ受入　2校

①ロボット導入事例

②ロボット導入事例

③生産性向上スクール

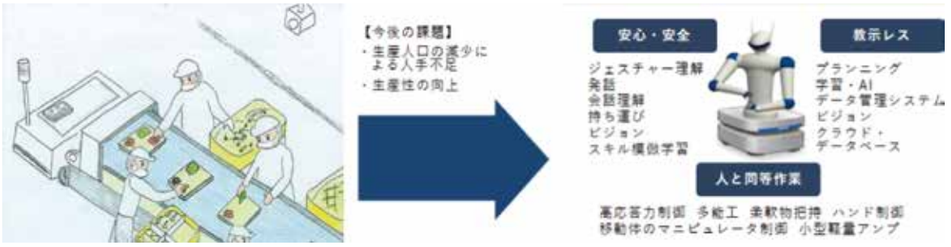
④工業高校インターンシップ

内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業

【計 画 名】革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト
【参画機関】北九州市、北九州産業学術推進機構、九州工業大学、㈱安川電機、他
【事業期間】平成30年～令和9年（うち、国補助期間5年間）

1.革新的ロボットテクノロジーによる「自律作業ロボット」の研究開発 【九州工業大学、㈱安川電機】

- 自律作業ロボットの研究開発事業



- 国内外からのトップレベル人材招聘事業
  新しい産業用ロボットの研究開発に向けて、国内外からトップレベルの研究者・専門家を招聘します

比留川博久教授

ロイフ・ファイファー教授

スティーブ・カズンズ教授

山田陽滋教授

- 中小ものづくり企業の生産性向上のための研究開発支援事業
- 安川テクノロジーセンタ整備事業（交付金事業対象外）

2.先端技術の社会実装の推進（現場主義・実践主義）

1）生産性向上支援事業
- 産業用ロボット導入支援
  FS事業、導入支援補助金
- 第4次産業革命　エグゼクティブビジネススクール
- ロボット・IoTを活用した生産性向上スクール

2）人材育成・若者定着事業
- ロボット導入等の課題解決型インターンシップ事業
- 有給インターンシップの実施
- 工業高校・高専・ポリテク等でのロボット教育

北九州市における導入支援策

3）北九州市 ロボット・DX推進センターの運営
中小ものづくり企業への産業用ロボット導入等を推進するため、「北九州市 ロボット・DX推進センター」を北九州学術研究都市に開設し、運営しています

3.キラリと光る地方大学づくり 【九州工業大学】

- 連携大学院（ロボティクスシンセシス&マネジメントコースの運営）
- AIシーズニーズマッチングシステムの運用
- 有給インターンシップの実施

DX推進に関する取り組み

DX推進補助金を実施

◆3つの補助金枠を設け、市内中小企業のDX推進を取り組み状況に応じて支援を実施。

補助金の種類	デジタル化枠	DXモデル育成枠	DXモデル枠
概要	中小企業の生産性向上を図るため、市内中小企業が実施するDXの各種取組み経費の一部を補助。また、申請枠を3段階設置し、中小企業のDX取組み状況に応じた支援を実施。		
	社内の業務効率化から始めたい事業者向け	ビジネスモデル変革に向けた戦略策定から始めたい事業者向け	新ビジネス創出等、デジタルトランスフォーメーションを加速させたい事業者向け
対象企業	市内に事業所を有する中小企業		
交付上限	最大80万円	最大200万円	最大500万円
補 助 率	対象経費の1/2以内	対象経費の2/3以内	対象経費の2/3以内
支援した件数（令和4年度）	48件	22件	8件

◆市内中小企業のDX人材育成を行う企業を支援

補助金の種類	ＤＸサポート事業
概要	市内中小企業の生産性向上に資するデジタル人材育成を行う事業者を支援
対象企業	市内企業、市外企業
交付上限	最大500万円
補 助 率	対象経費の2/3以内
支援した件数（令和4年度）	5件

AIを活用した建設DX

◆DXモデル枠

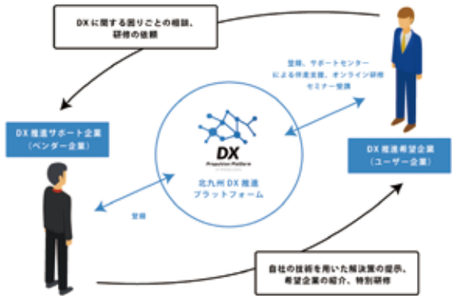
企業名	事業名
平川産業株式会社	旧基幹システムからERPへの移行及びPLM･MESの導入によるスマートファクトリー化プロジェクト
有限会社ゼムケンサービス	女性からの発想　新しい建設産業へ　多様な人材の活用を促進させる知識AI（愛）遠隔サービス 中小建設業のDXモデル事業
日本鉄塔工業株式会社	部門システムのデータベース統合とWebアプリ開発による、生産性向上及び特殊鉄骨制作対応
株式会社ビートルマネージメント（コンソーシアム名:ビートル開発グループ）	廃棄物処理分野における運行管理アプリケーションの開発事業
株式会社リョーワ	ERP導入、ものづくり支援プラットフォーム構築事業
ミシマ･オーエー･システム株式会社	主力製品「WEBブラウザ対応 SCADA Panacea」の次世代バージョン開発による、市場シェア拡大、及び中小製造業のDX化促進
熱産ヒート株式会社	熱のデータバンク化実現によるエネルギーマネジメントシステムの構築
株式会社フジコー	㈱フジコー若松響工場のDX推進化

◆DXモデル育成枠

企業名	事業名
小倉合成工業株式会社	工場運転のデジタル化と社内ネットワーク構築事業
株式会社勝山工作所	IoT･クラウドシステムを活用した業務プロセスの改善とネットワーク構築事業
シャボン玉石けん株式会社	DX推進に向けた、IoTネットワーク環境の構築
野坂建設株式会社	デジタイゼーションからデジタライゼーションへ
株式会社KOTANI	DX推進による作業の見える化及び作業効率化
有限会社恒成工作所	事務所と現場のIOT化
株式会社池間組	池間組2.0実現に向けたDX推進事業STEP1
光洋金属工業株式会社	タブレット端末活用によるスマートファクトリー化
イワキ工業株式会社	業務システム（仮称 MITシステム）の構築と社内ネットワーク構築事業
株式会社アポロサービス	クラウドサービスによる多店舗運営のDX化
株式会社アイム製作所	制御盤製造会社での設計工数収集のスマートツールの活用事業
佐藤株式会社	RPA及びDocuworks導入による業務効率化及び電子帳簿保存法対応事業
JR九州ステーションホテル小倉株式会社	分析ソフトMarksNavigator導入によるレベニューマネージメント強化
株式会社戸畑ターレット工作所	ダイカスト金型の表面温度監視による品質、生産性の向上および多機能モニターの導入による WEB会議の質向上
株式会社大幸組	土木工事におけるICTコンサルティングサービスの提供
株式会社西本町鉄工所	包括的な業務のデジタル化によるリング製造事業のスリム化と新規事業展開の準備
株式会社スリーアロウズシステムズ	新ビジネス創出　介護事業所向け事務作業軽減アプリ開発および販売
有限会社BOND	オンライン直接販売の新規事業化と、顧客対応及び社内一元管理システム構築によるDX推進事業
株式会社HANATABA	弊社「tender」システム台本作成機能のノーコードツール化
株式会社エールアクティブ	プログラミング教室における顧客起点の価値創出とデジタル学習プラットフォームの構築
株式会社ドーワテクノス	ERP･販売管理･業務フローの改善を含めた生産性2倍活動
株式会社岡崎製作所	管理体制強化及び生産性向上のためのDX推進事業

北九州市DX推進プラットフォーム

DXを推進したい北九州市内の企業と、DXの推進をサポートする企業をつなぐために、令和２年度に北九州市が創設したプラットフォーム。令和４年度より北九州市ロボット・DX推進センターで運営管理。



ー DXを推進したい企業とサポートする企業をつなぐー

専用Webサイト

北九州市DX推進フォーラムの開催

北九州市DX推進プラットフォームの主催により、国内外のDX関連動向の情報発信や北九州市内におけるDX事例の紹介を行う北九州市DX推進フォーラムを開催し、基調講演・セミナーのほか、北九州市ロボット・DX推進センターにおける簡易展示会を実施し、DX関連製品・サービスの紹介を実施しました。

日　程／ 令和５年１月16日(月) 13:00～18:00
場　所／ 北九州市ロボット･DX推進センター／オンライン(ウェビナー)
参　加／ 157名
内　容／ ●基調講演テーマ「パートナーと推進するDX」
（講師:INDUSTRIAL-X　代表取締役　八子 知礼 氏）
●DX推進セミナー「北九州市内事業者によるデジタルマーケティング実践事例」
（講師:グランド印刷　代表取締役　小泊 勇志 氏）
●DX推進サービス･製品展示／ショートプレゼン
（出展／登壇:全17社･団体）

北九州市DX推進フェアの開催

これからDXに取り組む企業に対するDXの考え方の周知や、実際にDXに取り組む地域企業の事例を紹介し、DXに向けた機運を醸成するため、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会とともに西日本ＤＸ推進フェアを令和4年7月6日～8日で開催。特設プレゼン会場を設置し、トークセッションや出展企業によるピッチを実施しました。

日　程／ 令和４年７月６日(水)～８日(金)
場　所／ 西日本総合展示場 新館
主催／　北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会
内　容／ ●基調講演
（講師:株式会社ゴールドラット･ジャパン CEO 岸良　裕司 氏）
●DX事例トークセッション
（登壇:松本工業株式会社、有限会社ゼムケンサービス、クラウン製パン株式会社）
●DXセミナー
（登壇:LinQ、北九州市、FAIS）
●出展企業による製品･サービス紹介ピッチ
（登壇:16社）
●北九州市内でDX推進に活用可能な制度の紹介
（FAIS）
●生産性向上セミナー
（講師:株式会社リョーワ　代表取締役社長　田中　裕弓 氏、北九州市　デジタル政策監　上田　紘嗣 氏）

北九州システムインテグレータネットワークの取り組み

北九州システムインテグレータネットワークとは
ロボットやデジタル技術等を取り扱うシステムインテグレータ企業１８社で構成。
「北九州地域における中小企業の生産性を向上させること」
「北九州地域をシステムインテグレータの拠点とすること」を主目的として、
北九州地域の産業振興を図ることを目指しています。

北九州システムインテグレータネットワークの活動を強化し、定例会議の開催やロボット産業マッチングフェアへの共同出展、および地元企業へ自動化に向けた提案などの活動を行いました。

令和４年度（2022）活動日程	
令和4年7月6日～8日	北九州市の西日本総合展示場で開催された「ロボット産業マッチングフェア」に共同出展
令和4年9月6日	令和4年度第1回ネットワーク協議会（WEB開催）
令和4年10月14日～11月14日	地元企業2社へ工場見学･意見交換、提案内容協議
令和4年12月22日	令和4年度第2回ネットワーク協議会（ハイブリッド開催）
令和5年2月6日～3月2日	地元企業2社へ自動化提案
令和5年3月30日	令和4年度第3回ネットワーク協議会（ハイブリッド開催）

エグゼクティブビジネススクールの実施

第4次産業革命への対応力を経営トップ自ら検討できる日本で唯一のビジネススクール

DX、第4次産業革命が進む中で、デジタル技術を活用し、成長を目指す中小ものづくり企業の経営層向けビジネススクールです。
デジタル技術による、生産性向上、業務革新、事業成長、技術継承、人材育成、国際基準への準拠等の様な利点について理解を深め、自社の進むべき将来像を描けるようになるための講座です。これまでの受講者からは非常に高い評価を得ています。

スクールのカリキュラム（令和4年度）

No.	日程	内容	講師
特別講座	令和4年8月19日～20日	DX･第4次産業革命の機会と脅威	野村総合研究所 藤野直明氏　梶野真弘氏
講座①	令和4年9月30日～10月1日	IoT･第4次産業革命の全体像	早稲田大学大学院　吉江修氏
講座②	令和4年10月28日～29日	プロジェクトスケジュール管理	早稲田大学大学院　藤村 修氏
講座③	令和4年11月25日～26日	受注管理業務	大分高専　尾形公一郎氏 佐世保高専　柳生義人氏
講座④	令和4年12月16日～17日	設計業務の効率化、製造実行管理、品質管理	熊本高専　田中禎一氏 鹿児島高専　島名賢児氏
講座⑤	令和5年2月3日～4日	製品設計･生産設計と製造現場、 アフターマーケットとのデータの統合管理	北九州高専　宮本章氏

生産性向上スクールの実施

ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上支援事業

生産性向上スクールの開催
製造現場の管理者・現場リーダーなどを対象に、生産性向上や新事業開拓に必要なロボット・IoT・AIといった新技術を身に付けるための研修を実施

実施期間：令和４年9月～12月（全11講座）
内　　容：生産性向上のための基礎編、IoT編、ロボット編など
受講者数：延べ173名

【スクールのカリキュラム（令和4年度）】

	No.	科　目	開 催 日
基礎編	1	DX･スマートファクトリー 「北九州発リーディングモデルで生産性向上!!」	9月2日
	2	北九州市における中小企業向けロボット･DX支援策のご紹介	
IoT編	1	IoTによる現場革新の全体像	9月21日
		スマホとGRコードで工程を見える化/治具の管理を センサーとラズパイで見える化	
	2	ラズベリーパイで始めるIoT	9月28日
	3	IoTだけじゃない!　すぐに使えるITツールで現場にも バックオフィスにも業務改善	10月5日
	4	市内発汎用IoTツールHiBiKitを使いこなそう	10月12日
ロボット編	1	産業用ロボット基礎講座	9月22日、10月27日、12月1日
	2	ロボット活用講座	9月29日、11月2日
	3	ロボットビジョン講座	10月6日、11月10日
	4	協働ロボット体験講座	10月13日、11月17日
	5	ロボットシミュレータ活用講座	10月19日、11月24日

デジタル人材教育プログラム（everiPro/everiGo）の実施

DX推進において全域で必要不可欠となるデジタルリテラシーの領域を網羅しつつ、テクノロジ領域に特化した、ビジネスパーソン向けの教育プログラムeveriPro（代表校：北九州市立大学、連携校：九州工業大学、熊本大学、宮崎大学、広島市立大学）や、北九州市近郊でシステムエンジニアを目指すIT未経験の方向けのWEB系システム開発プログラマ育成プログラムeveriGo（事業主体：北九州市立大学）について、FAISはプログラム運営、連携先企業の紹介等をサポートしています。

EVERi PRO　産業DXリスキリングプログラム
Evolving and Empowering Regional Industries

令和4年度受講者数55名

everi Go　未経験ゼロから半年間でIT就職を目指す人材育成プログラム
Evolving and Empowering Regional Industries

受講無料※
未経験者OK
身につく実践スキル
就職まで完全サポート

everi Go
Evolving and Empowering Regional Industries

令和4年度受講者数30名

東田オープンラボによる新ビジネス創出事業

北九州市域を実証・実装フィールドと位置付け、地域の方々に先端技術をいち早く体験いただける、ワクワクできるまちづくりを進めると同時に、実用化された製品やサービスをもとに新たなビジネスが立ち上がり、企業や大学研究機関が集積、ここで生み出された技術がきっかけとなり、魅力あるプロジェクトが次々に生み出される。「東田オープンラボ構想」では、こうしたことが循環する「イノベーションのエコシステム」の形成を目指します。

令和４年度は、構想実現に向けた機運を醸成するため、未来：先端技術をテーマとした連続セミナー「北九州未来創造セミナー」を計３回開催し、延べ２９５名の参加がありました。また、実証のニーズ・シーズ探索、プロジェクトの掘り起こしを行いました。

機運の醸成（北九州未来創造セミナー）

回	テーマ	開催日	会場	参加者
第1回	ドローン活用最前線 点検から様々な分野に広がるドローン活用!	1月27日	枝光本町商店街 アイアンシアター	107名
第2回	データ活用によるビジネス創出最前線 PLR分散型データ共有が新たな価値を生み出す!	2月17日	九州ヒューマンメディア 創造センター	85名
第3回	新しい時代のインターネットWeb3.0最前線 Web3.0領域のトレンド技術～メタバース･NFT/SBT	3月3日	北九州市ロボット･DX 推進センター	103名
合計				295名

実証のニーズ・シーズ探索、プロジェクトの掘り起こし（プロジェクト2例）

（1）国立研究開発法人情報通信研究開発機構との連携拡大

「キレイな空気プロジェクト」出前講座
先端技術に触れ、研究開発に参加、成果発表
明治学園中学高等学校（高校1年約160名）

（2）社会課題にチャレンジする㈱吉川システック支援

園バス「置き去り防止RFIDシステム」PoC
実証フィールド支援（尾倉幼稚園）

生産性向上リーディングモデル創出事業

IoTによる中小企業の生産性向上をテーマに、北九州地域の中小企業（製造業含む）の業務の改善を促進し、売上増加、雇用拡大を通じた本誌経済の活性化につなげるための活動を行っています。特に、各社の生産性向上に対する意識の向上を図るため、先導できるプロジェクト（リーディングプロジェクト）を共同実証方式で実施しています。

	会社名（業種）	目　的
継続実施	㈱戸畑ターレット工作所（非鉄部品製造）	工程進捗を把握し、生産性向上･およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
	日本鉄塔工業㈱（鋼構造物の製造）	工程進捗を把握し能力アップを狙う。
	吉川工業ファインテック㈱（プレス加工業）	工場稼働率を把握し計画の精度向上を図る。
	㈱山本工作所（ドラム缶製造）	プレス機故障を予兆段階で把握し停止防止を図る。
	ミシマ･オーエー･システム㈱（ソフトウェア開発）	データセンタUPS内蓄電池の法定検査の省力化を図る。
	溝上酒造㈱（醸造業）	定期的な温度管理を自動化し、省力化する。
	イワキ工業㈱（特殊ねじ製造）	現在手書きの作業日報を自動入力し効率化･原価把握まで実施したい。
	石川金属工業㈱（自動車部品製造）	蒸着メッキで使用する、治具台車の利用回数を自動カウントし、メンテ時期を把握したい。
	和田合金（株）（銅合金鋳物鋳造及び機械加工）	加工･工作機械（旋盤）の、実稼働率を把握することで、効率化によるコスト減と負荷の低減を図りたい。
	㈱勝山工作所（金属機械加工製造）	金属加工機の実稼働状況を知ることで、リードタイム計測･設備稼働率向上による生産性UPを図りたい。
	（株）KOTANI（水回り手摺製造）	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上･およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
	石川金属工業（株）（自動車部品製造）	自動車部品のメッキ工程で使用する、吊手金具の利用回数を自動カウントし、交換･メンテ時期を把握したい。
	光洋金属工業（電磁鋼板加工）	工程別の進捗状況を把握し、生産性向上･およびスタッフ管理コスト削減を目指す。
新規追加	吉川工業ファインテック㈱（No2）	QRコードを活用した生産情報一括管理の実現。
	（株）アイム製作所（制御盤･制御装置の製造）	社員の工程情報を電子化することで、個人スケジュール、部門工程、受注工程、工程管理情報の一元化を実現する。
	【農業DX】（株）桃源舎（施設ハウス運営、野菜卸売り業）	最新のIT技術を応用することにより、先進的な都市型農業の実現（農業DX）を目指す。

九州ヒューマンメディア創造センターの運営

地域のIT産業振興の拠点として、九州ヒューマンメディア創造センター（八幡東区東田一丁目５－７）を設置・運営しています。ここを中心として、近隣のデータセンター群やその運用の拠点施設、書類・メディアの保管・集配などのサービスを提供する情報倉庫、コンタクトセンターなど次世代を担う産業・業務施設の集積が進んでいます。

ビル内には、会議や研修などに利用できる会議スペースも備えており、入居企業をはじめ多くの方々に利用いただいています。

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口に配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日（土・日）相談を実施しています。

●令和４年度実績／総合相談件数1,602件

◎巡回相談の実施

直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●令和４年度実績／285社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家（登録約300名）を派遣して支援をしています。

●令和４年度実績／11件、28回

中小企業支援センター

チーフマネージャー
鞍井 健司（くらい けんじ）
地元金融機関出身
金融機関での経験を活かし、中小企業の資金繰りや融資相談、創業相談など、経営全般に関わる悩みを積極的にサポートする。

マネージャー
籾井 隆志（もみい たかし）
アルテックソリューションズ(株)
代表取締役
一級建築士、中小企業診断士。経営者、エンジニア及び経 営コンサルタントの経験を活かして、中小企業の持続的　成長を支える仕組みづくりなど総合的な支援を行う。

マネージャー
則松 佳孝（のりまつ よしたか）
特に福祉に関する業務を得意とし、社会福祉法人・NPO法人の会計業務にも精通。相談者に対し、専門用語を使わない理解しやすいアドバイスを心掛けている。

マネージャー
北嶋 知美（きたじま ともみ）
(株)ヒロインコンサルティング
代表取締役
中小企業診断士の資格を持ち、戦略策定・実行、経営改善、生産性向上、販路開拓等、中小企業の幅広い悩みに対応し課題解決をサポートする。

マネージャー
野島 英樹（のじま ひでき）
野島中小企業診断士事務所代表
大手外食企業で現場や経営に携わり、中小企業診断士として独立。現場経験を活かした実行力で企業の「想い」の達成に向けて伴走をしている。

巡回相談・マッチング担当
村田 信敏（むらた のぶとし）
中小企業診断士
市内の製造業を対象に訪問し、各種相談に応じる。支援施策や担当部署を紹介。あわせて、製造業の受発注のマッチングを担当。

◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●令和4年度実績／創業33社

◎マッチングコーディネートの実施

専門的知識や幅広い人脈を持つマッチング担当者が市内のものづくり中小企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。

●令和4年度実績／マッチング件数23件、成約件数3件

◎知的財産活用の実施

北九州地域の中小企業の新技術・新商品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●令和4年度実績／発明相談55件、
特許相談631件

窓口支援担当者
武内 洋介
（たけうち　ようすけ）
住宅設備メーカー出身。
研究、開発、製造の経験を活かし特許・意匠・商標の出願サポートに留まらず、知的財産を通して企業の業績向上に貢献できるような支援を行う。

情報発信

●北九州市中小企業支援ガイドブック

北九州市内の中小企業が利用可能な行政等の支援施策をまとめた冊子です。
中小企業支援センターで無料配布しています。

◎発行部数6,000部

●メールマガジンによる情報発信

「中小企業支援センタートピックス」を配信中。
補助金、セミナー情報等中小企業に関するトピックスを掲載しています。

◎配信先　約3,700件（令和5年3月現在）
◎毎週木曜日配信

●ネットワーク北九州の発行

中小企業支援施策の紹介等をまとめた市内中小企業向け情報紙「ネットワーク 北九州」を毎月1日に発行しています。

◎中小企業支援センターHPからダウンロード可能です
https://www.ktc.ksrp.or.jp/nwk/

●実践起業塾２０２２

起業予定者、起業後間もない方を対象に、起業の心構え、事業計画書作成の基礎知識や財務、会計などについて学ぶ講座を開催しました。

◎令和4年度実績　受講者13名

新型コロナウイルス感染症まん延に対する中小企業支援

●新型コロナウイルス感染症まん延に伴う、国や市の中小企業支援策に対応した特別窓口を設置しました。

◎緊急事態宣言の影響緩和に係る事業復活支援金の事前確認窓口 … 353件（R4年6月17日まで）

●訪問相談員による訪問相談を実施しました。（R4年　832件）

財団運営

評議員名簿 （令和5年5月19日）

五十音順

氏名	役職名
上田　陽一	産業医科大学長
片山　憲一	北九州市副市長
津田　純嗣	北九州商工会議所会頭
鶴見　智	北九州工業高等専門学校長
西原　達次	九州歯科大学長
西山　寛治	福岡県商工部新産業振興課長
平井　寿敏	産業技術総合研究所九州センター所長
宮﨑　幸雄	九州電力㈱執行役員北九州支店長
山本　和男	（公社）九州機械工業振興会会長

役員名簿 （令和5年5月19日）

五十音順

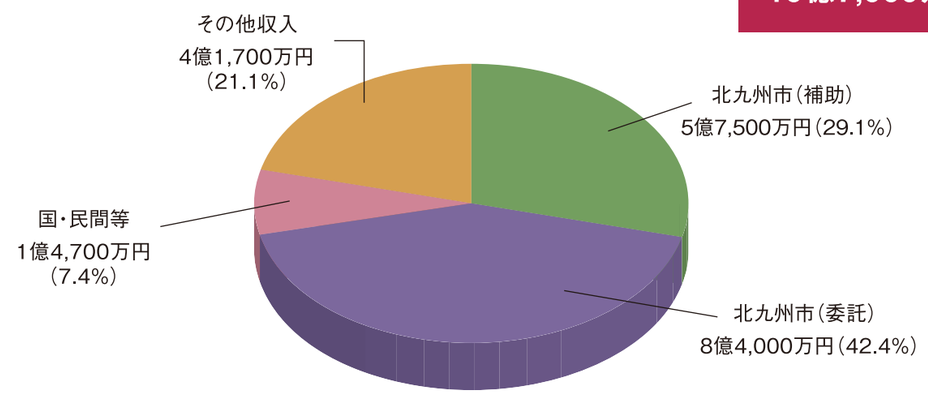
役員の種類	氏名	役職名
理 事 長	松永　守央	（公財）北九州産業学術推進機構理事長
副理事長	植中　裕史	アイシン・ソフトウェア（株）取締役社長
専務理事	江副　春之	（公財）北九州産業学術推進機構専務理事
理　事	池永　紳也	北九州市産業経済局長
〃	井上　文人	早稲田大学常任理事
〃	上江洲 一也	北九州市立大学副学長
〃	自見　榮祐	（一社）北九州中小企業団体連合会顧問
〃	庄司　裕一	北九州情報サービス産業振興協会会長
〃	中藤　良久	九州工業大学副学長
監　事	吉野　浩実	㈱西日本シティ銀行常務執行役員北九州総本部長
〃	吉村　知泰	北九州市会計室長

令和４年度 決算資料

収入および支出内訳

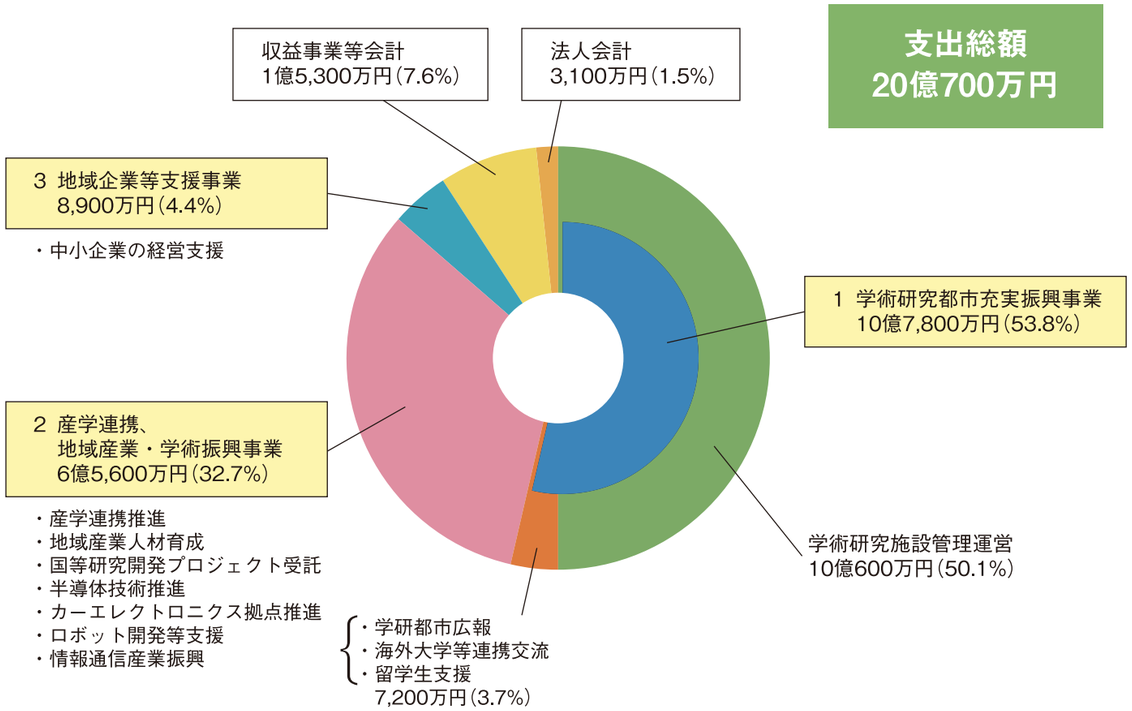
＜収入＞

収入総額
19億7,900万円



＜支出＞

支出総額
20億700万円



貸借対照表

令和5年3月31日現在

（公財）北九州産業学術推進機構　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	575,707,611	641,107,885	△ 65,400,274
未収金	333,237,310	375,289,212	△ 42,051,902
流動資産合計	908,944,921	1,016,397,097	△ 107,452,176
2．固定資産			
（1）基本財産			
投資有価証券	285,221,176	280,468,464	4,752,712
普通預金	278,824	5,031,536	△ 4,752,712
基本財産合計	285,500,000	285,500,000	0
（2）特定資産			
建物	595,284,494	613,951,952	△ 18,667,458
建物付属設備	22,961,044	32,319,778	△ 9,358,734
構築物	1	1	0
機械設備	16,063,594	18,474,456	△ 2,410,862
什器備品	15,024,629	20,718,662	△ 5,694,033
無形固定資産	108,214	317,521	△ 209,307
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	16,055,760	16,055,760	0
旭興産研究支援事業積立資産	12,853	12,078	775
上野精機人材育成事業積立資産	5,000,000	0	5,000,000
修繕積立資産	184,320,000	177,320,000	7,000,000
普通預金	163,320,000	162,320,000	1,000,000
投資有価証券	21,000,000	15,000,000	6,000,000
ビル附属設備積立資産	126,209,190	108,209,190	18,000,000
特定資産合計	990,676,190	997,015,809	△ 6,339,619
（3）その他固定資産			
建物付属設備	25,606,351	27,640,471	△ 2,034,120
構築物	406,804	428,309	△ 21,505
車両運搬具	1	1	0
機械設備	4,308,465	5,225,325	△ 916,860
什器備品	10,633,166	11,213,144	△ 579,978
無形固定資産	4,758,412	6,482,995	△ 1,724,583
電話加入権	73,000	73,000	0
保証金	20,000	20,000	0
リサイクル預託金	10,480	10,480	0
長期未収金	69,002	69,002	0
その他固定資産合計	45,885,681	51,162,727	△ 5,277,046
固定資産合計	1,322,061,871	1,333,678,536	△ 11,616,665
資産合計	2,231,006,792	2,350,075,633	△ 119,068,841
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	246,775,180	322,093,773	△ 75,318,593
前受金	0	120	△ 120
預り金	5,460,586	5,119,701	340,885
預り金(敷金)	83,060,820	81,500,796	1,560,024
流動負債合計	335,296,586	408,714,390	△ 73,417,804
2．固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	335,296,586	408,714,390	△ 73,417,804
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
北九州市補助金	342,963,272	361,045,593	△ 18,082,321
国庫補助金	277,603,091	287,237,468	△ 9,634,377
その他補助金	0	1	△ 1
寄付金	205,012,853	200,012,078	5,000,775
指定正味財産合計	825,579,216	848,295,140	△ 22,715,924
（うち基本財産への充当額）	(200,000,000)	(200,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(617,622,770)	(635,684,161)	(△18,061,391)
2．一般正味財産	1,070,130,990	1,093,066,103	△ 22,935,113
（うち基本財産への充当額）	(85,500,000)	(85,500,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(373,053,420)	(361,331,648)	(11,721,772)
正味財産合計	1,895,710,206	1,941,361,243	△ 45,651,037
負債及び正味財産合計	2,231,006,792	2,350,075,633	△ 119,068,841

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

（公財）北九州産業学術推進機構　（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
（1）経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,883,449	1,854,230	29,219
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	86,594	66,000	20,594
③事業収益			
北九州市受託事業収益	840,089,133	763,541,577	76,547,556
国受託事業収益	0	7,790,000	△ 7,790,000
その他受託事業収益	88,761,019	89,214,437	△ 453,418
ＴＬＯライセンス事業収益	972,034	1,078,231	△ 106,197
その他事業収益	214,454,868	189,884,326	24,570,542
収益事業等会計収益	20,612,967	21,220,182	△ 607,215
ビル事業収益	147,365,590	145,643,168	1,722,422
④受取補助金等			
受取北九州市補助金	571,663,712	409,082,026	162,581,686
受取国庫補助金	49,759,727	43,808,175	5,951,552
受取補助金等振替額	31,123,971	29,614,363	1,509,608
⑤受取寄付金			
受取寄付金	600,000	1,000,000	△ 400,000
受取寄付金振替額	9,999,225	9,987,922	11,303
⑥雑収益			
雑収益	1,261,934	1,134,000	127,934
経常収益計	1,978,634,223	1,714,918,637	263,715,586
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,341,956	13,174,499	167,457
給与	206,791,830	204,546,621	2,245,209
福利厚生費	47,436,501	43,367,509	4,068,992
会議費	2,364,830	153,315	2,211,515
渉外費	837,349	78,800	758,549
旅費交通費	8,890,041	3,220,330	5,669,711
通信運搬費	7,202,330	7,075,958	126,372
減価償却費	46,954,185	44,949,224	2,004,961
消耗品費	17,040,446	12,578,258	4,462,188
修繕費	82,427,389	91,262,318	△ 8,834,929
印刷製本費	1,518,660	976,250	542,410
新聞図書費	4,841,019	4,147,226	693,793
燃料費	331,124	173,259	157,865
光熱水費	242,350,278	194,126,167	48,224,111
賃借料	75,538,527	74,975,512	563,015
保険料	1,933,630	1,667,960	265,670
諸謝金	69,139,539	52,273,105	16,866,434
租税公課	34,133,886	34,551,137	△ 417,251
委託費	707,525,960	627,228,496	80,297,464
支払負担金	77,902,980	70,859,834	7,043,146
支払助成金	287,564,770	120,947,300	166,617,470
ライセンス料	210,630	290,762	△ 80,132
支払手数料	13,696,106	13,673,909	22,197
奨学金	12,600,000	13,000,000	△ 400,000
雑費	13,860	3,440	10,420

科目	当年度	前年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,447,319	4,391,500	55,819
給与	4,131,224	5,582,177	△ 1,450,953
福利厚生費	1,299,170	1,600,066	△ 300,896
会議費	45,440	42,790	2,650
渉外費	95,103	54,451	40,652
旅費交通費	1,255,100	427,370	827,730
通信運搬費	143,111	137,414	5,697
減価償却費	1,086,806	1,374,182	△ 287,376
消耗品費	1,291,042	476,735	814,307
修繕費	118,800	0	118,800
印刷製本費	176,000	92,400	83,600
新聞図書費	96,178	81,056	15,122
燃料費	200,256	141,204	59,052
光熱水費	75,847	60,524	15,323
賃借料	1,783,696	1,583,441	200,255
保険料	129,790	128,160	1,630
諸謝金	924,900	840,000	84,900
租税公課	45,494	9,247	36,247
委託費	5,283,944	2,721,930	2,562,014
支払負担金	730,375	621,675	108,700
支払手数料	3,143,098	2,101,839	1,041,259
雑費	2,700	800	1,900
経常費用計	1,989,093,219	1,651,770,150	337,323,069
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,458,996	63,148,487	△ 73,607,483
基本財産評価損益等			
基本財産償還損	5,278,575	0	5,278,575
評価損益等計	△ 5,278,575	0	△ 5,278,575
当期経常増減額	△ 15,737,571	63,148,487	△ 78,886,058
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①除却損失			
機械設備除却損	0	1	△ 1
什器備品除却損	44	17	27
無形固定資産除却損	1	0	1
②過年度損益修正損			
過年度損益修正損	6,050,197	5,805,290	244,907
経常外費用計	6,050,242	5,805,308	244,934
当期経常外増減額	△ 6,050,242	△ 5,805,308	△ 244,934
税引前当期一般正味財産増減額	△ 21,787,813	57,343,179	△ 79,130,992
法人税・住民税及び事業税	1,147,300	1,306,500	△ 159,200
当期一般正味財産増減額	△ 22,935,113	56,036,679	△ 78,971,792
一般正味財産期首残高	1,093,066,103	1,037,029,424	56,036,679
一般正味財産期末残高	1,070,130,990	1,093,066,103	△ 22,935,113
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
受取北九州市補助金	3,407,272	12,811,370	△ 9,404,098
受取寄付金			
受取寄付金	15,000,000	10,000,000	5,000,000
基本財産受取利息	1,883,449	1,854,230	29,219
一般正味財産への振替額	△ 43,006,645	△ 41,456,515	△ 1,550,130
当期指定正味財産増減額	△ 22,715,924	△ 16,790,915	△ 5,925,009
指定正味財産期首残高	848,295,140	865,086,055	△ 16,790,915
指定正味財産期末残高	825,579,216	848,295,140	△ 22,715,924
Ⅲ　正味財産期末残高	1,895,710,206	1,941,361,243	△ 45,651,037

アクセスマップ

北九州学術研究都市

□事務局
　総務部
　総務部（学術情報センター）
□グリーンイノベーション推進本部
●産学連携センター
　産学連携部
　事業推進部

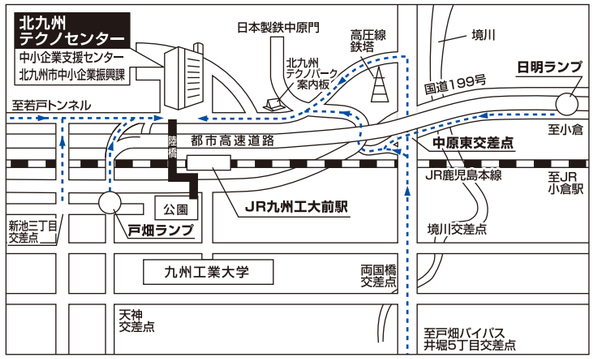
●自動車産業支援センター
●半導体産業支援センター
●ロボット・DX 推進センター
　ロボット産業推進部
　DX 推進部

【公共交通機関の場合】 ◎ＪＲ折尾駅バス停 ⟶ 市営バス・西鉄バス ⟶ 学研都市ひびきの　※所要時間約15分
◎北九州空港バス停 ⟶ 西鉄バス ⟶ 学研都市ひびきの　※所要時間約80分

【車をご利用の場合】 ◎北九州都市高速道路　黒崎出入口（黒崎・折尾出口下車）折尾方面へ ⟶ 学研都市ひびきの
※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分
◎小倉都心 ⟶ 北九州都市高速道路 東田出入口 ⟶ 黒崎バイパス 皇后崎ランプ ⟶ 学研都市ひびきの
※所用時間小倉都心から約30分

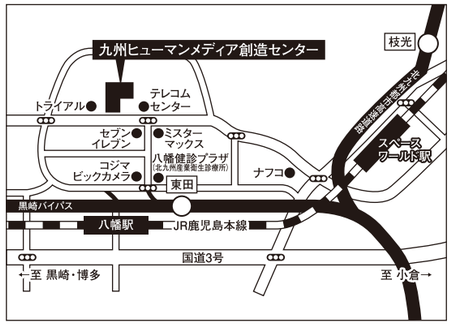
北九州テクノセンター

●中小企業支援センター



◎ＪＲ九州工大前駅下車北側へ徒歩３分
◎小倉方面から
　国道１９９号中原東交差点よりテクノパークへ入る
◎戸畑方面から
　北九州都市高速戸畑ランプへ向かってＪＲ線をまたぐ高架を上り、
　料金所直前で左折してテクノパークへ入る（一方通行）

九州ヒューマンメディア創造センター
DX推進部（東田オフィス）



◎ＪＲ八幡駅から徒歩5分
◎北九州都市高速道路：東田出入口ランプから車で3分